

令和7年度全国学力・学習状況調査結果

令和7年10月24日
長浜市教育委員会

調査実施日：令和7年4月17日（木）

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

- ・小学校調査 市内公立小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年 990人
- ・中学校調査 市内公立中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年 959人

3 調査内容

ア 教科に関する調査

- 小学校調査・・・国語、算数、理科 各45分
- 中学校調査・・・国語、数学、理科 各50分

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※上記①と②を一体的に問うこととする。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的な生活習慣等、家庭学習の状況など	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

長浜市の教科に関する調査結果

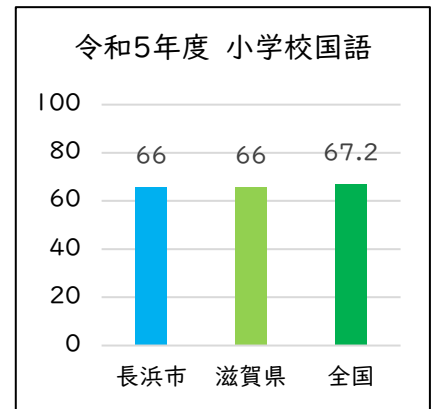
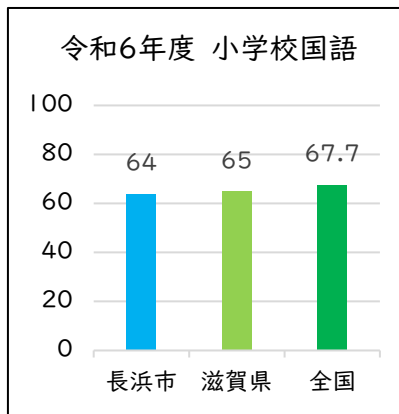
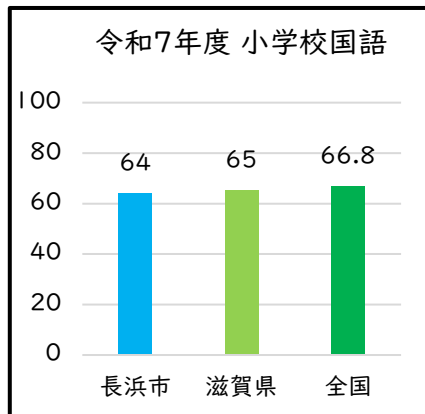
I 平均正答率(%)

※文部科学省がまとめた調査結果をもとに作成しています。

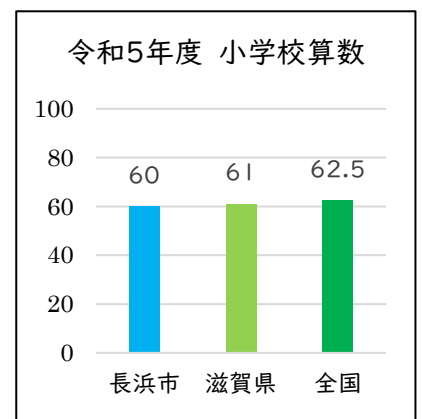
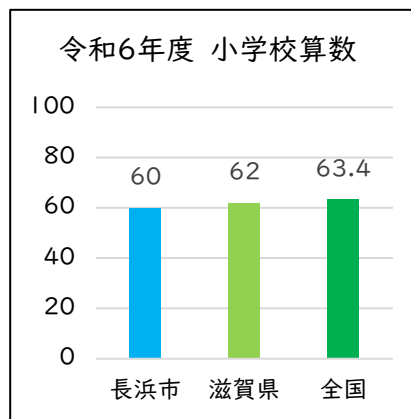
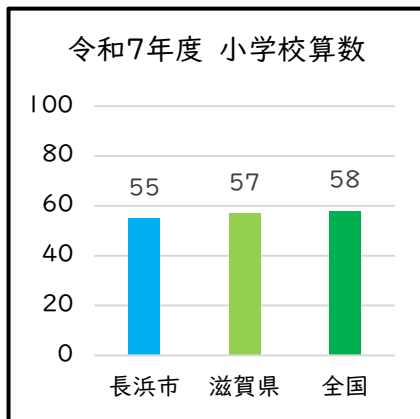
【小学校調査】

※滋賀県・長浜市の平均正答率は、整数値の公表となっています。

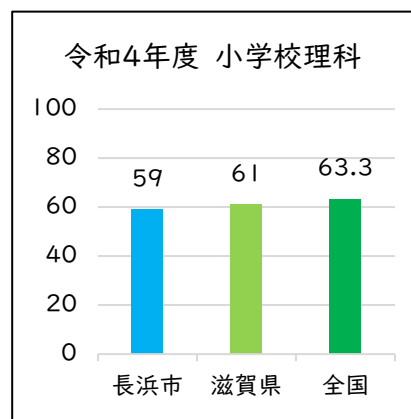
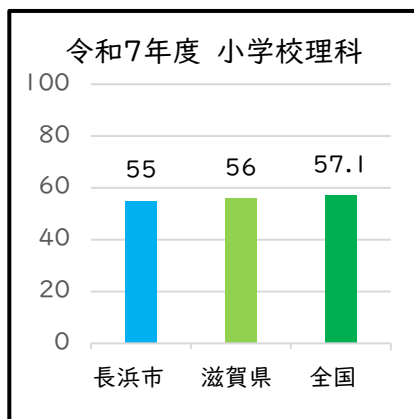
国語



算数



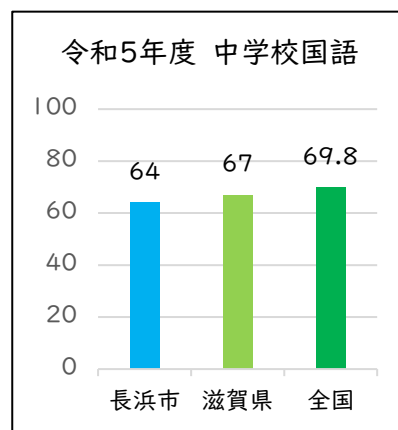
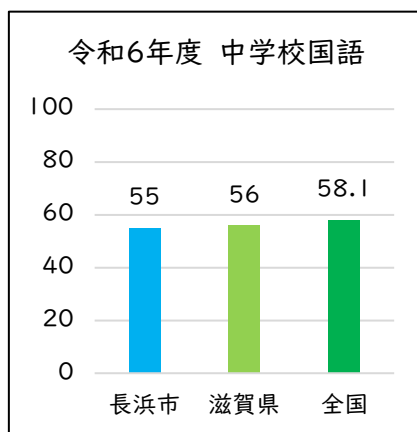
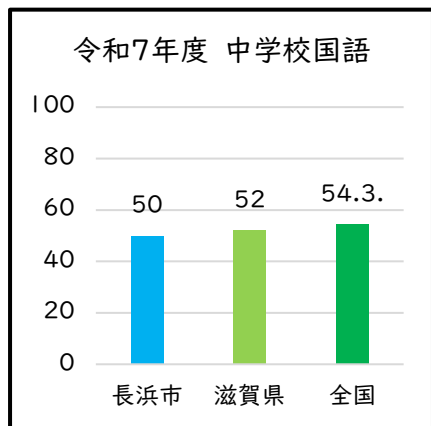
理科



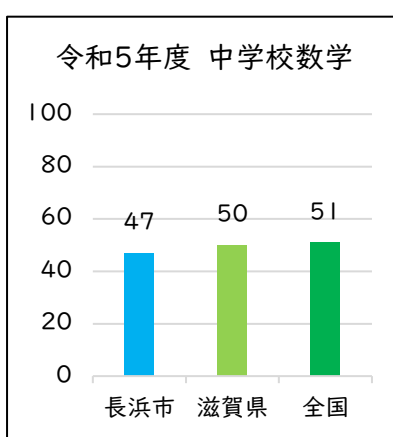
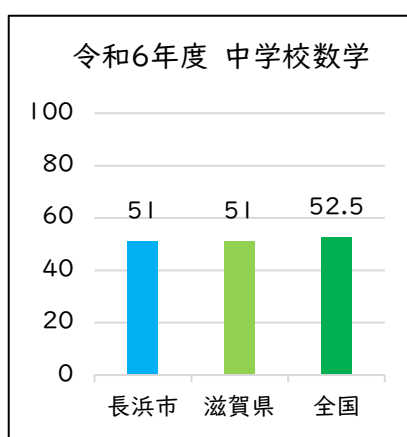
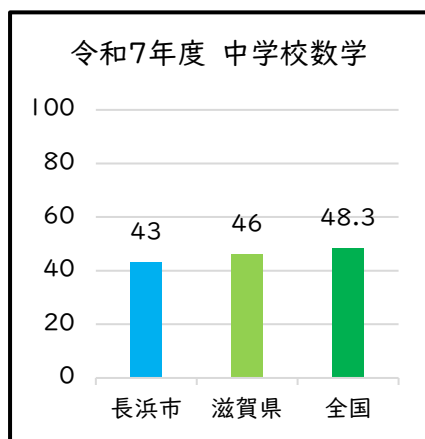
理科の調査は、3年ごとに実施されます。

【中学校調査】

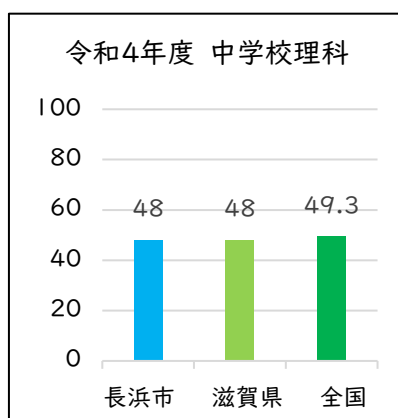
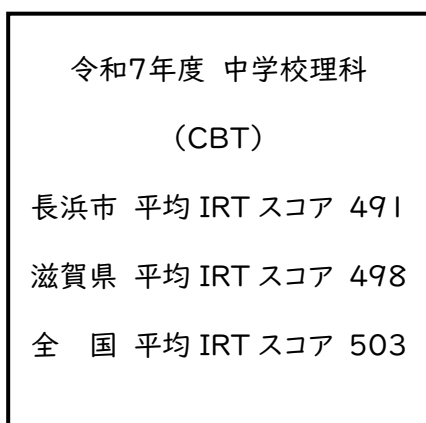
国語



数学



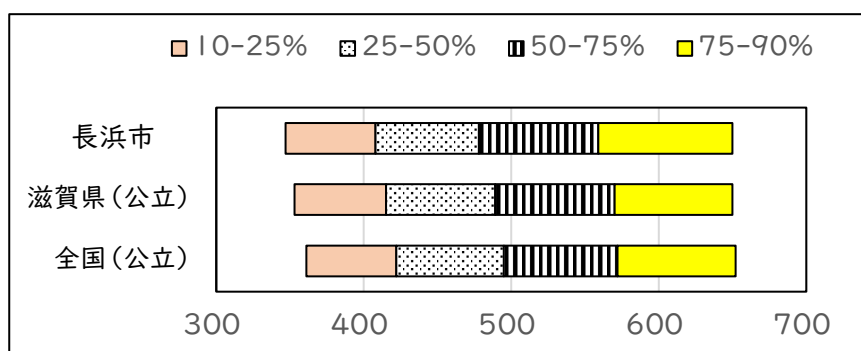
理科



今年度から中学校理科ではオンライン方式が初導入されました。国際的な学力調査で用いられる「IRT」と呼ばれる統計的に到達度を測定する「項目反応理論」を使ったスコアで示されています。

*CBT コンピューターを使って実施される試験方式

IRT スコア分布グラフ(パーセンタイル値:10%,25%,50%,75%,90%)



IRT バンド集計値

IRT バンド	割合(%)		
	長浜市	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
5	6.6	6.1	6.2
4	16.8	19.7	20.3
3	41.2	40.8	42.0
2	29.3	28.4	27.3
1	6.1	5.0	4.2

2 結果の概要

全国学力・学習状況調査の目的は、学習指導の充実や改善を図ることです。市としても結果から課題を焦点化し、学校全体での実践につなげることが大切だと考えています。

小学校の平均正答率は、国語・算数ともに昨年度よりも全国との差が小さくなっています。小学校の理科は、令和4年度の結果と比較すると、全国との差が小さくなっています。

中学校の平均正答率は国語・数学ともに昨年度と比較して、全国との差が大きくなっています。理科に関しては、IRT のため前回との比較はできませんが、今年度の結果は全国平均 IRT スコアには到っていません。

中学校理科IRTスコアの分布グラフから、長浜市は「75%－90%」の層は、全国平均を上回る生徒が多くみられる一方で、「10%－25%」の層が全国平均よりも低い所から始まり、分布の広がりが大きくなっています。つまり、全国・県と比較すると、児童・生徒の個人差が大変大きく、その対応が必要です。特に、学習に困り感を持つ児童・生徒への支援や個別対応が重要であると考えます。

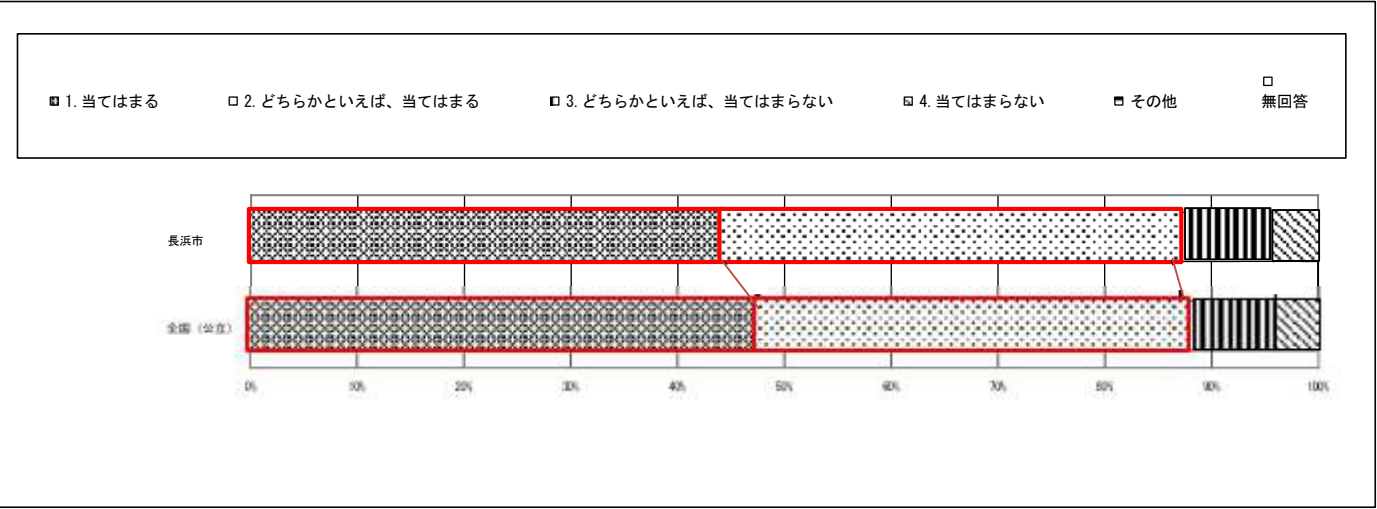
こうした結果を踏まえ、子どもたちの学びをより深めていくため、教科ごとの課題を整理し、改善に向けた取組を進めます。

児童質問紙 小学校71項目

- ・自分の生活での意識をたずねる項目について、子どものメディア利用やルール遵守に関する項目が削除されました。家では主に何語で話しているかを尋ねる項目が追加されました。
- ・子どもの習慣や学習環境を尋ねる項目について、学校の授業時間以外に読書をする時間や読書が好きかどうかを尋ねる項目が加えられました。
- ・ICT機器の活用状況と意識に関する項目について、児童のICT活用スキルに関する質問が追加されました。
- ・国語の学習に関する項目について、先生からの声かけやアドバイスに関する質問が追加されました。

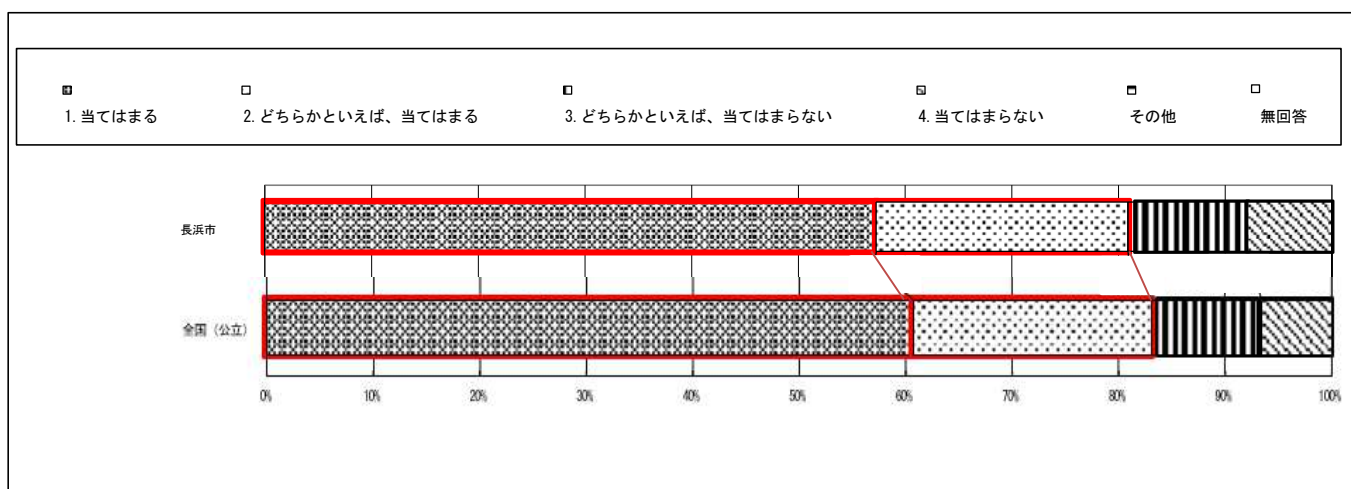
質問番号		質問事項											
(5)	 全国比率とほぼ同率	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市		44.1	42.2	9.5	4.2							0.0	0.0
全国（公立）		47.3	39.6	9.1	3.9							0.0	0.0

R7 長浜市 86.3% 全国 86.9% -0.6%
R6 長浜市 84.4% 全国 84.1% +0.3%



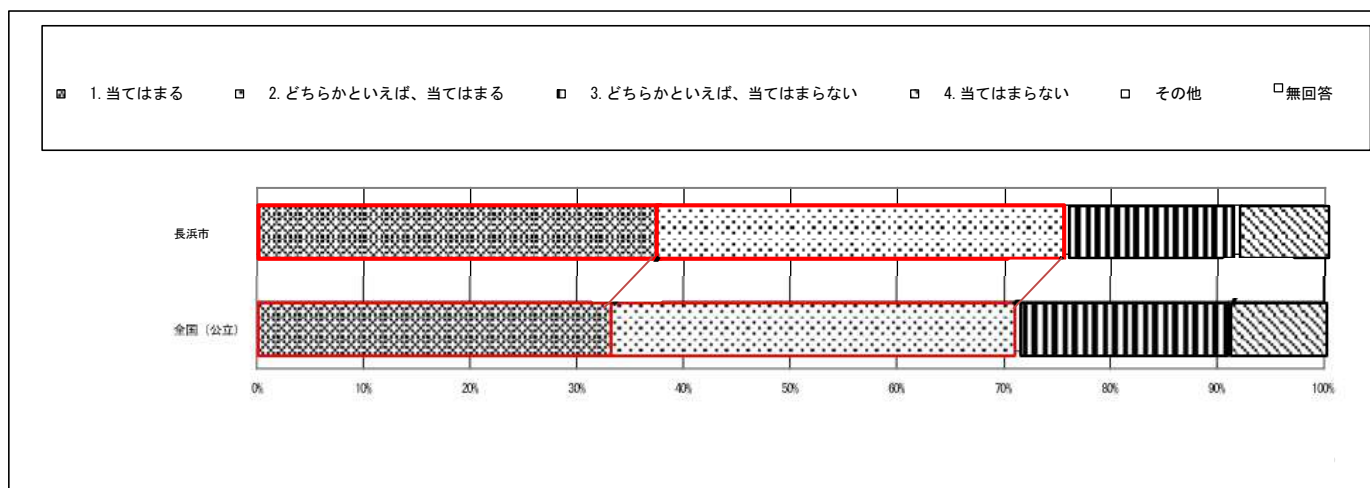
質問番号	質問事項											
(7) 	将来の夢や目標を持っていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	57.3	23.6	11.2	7.9							0.0	0.0
全国（公立）	60.7	22.4	10.3	6.6							0.0	0.0

R7 長浜市 80.9% 全国 83.1% -2.2%
R6 長浜市 79.6% 全国 82.4% -2.8%



質問番号	質問事項											
(10) 	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	37.3	37.8	16.8	8.1							0.0	0.0
全国（公立）	33.1	37.5	20.5	8.8							0.0	0.1

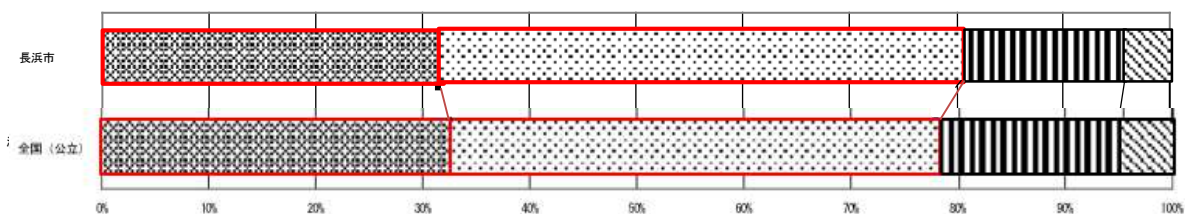
R7 長浜市 75.1% 全国 70.6% +4.5%
R6 長浜市 66.4% 全国 67.1% -0.7%



質問番号	質問事項											
(13) 良好	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	31.6	48.8	15.3	4.3							0.0	0.0
全国（公立）	32.6	45.5	17.1	4.7							0.0	0.1

R7 長浜市 80.4% 全国 78.1% +2.3%
R6 長浜市 75.8% 全国 75.8% 同率

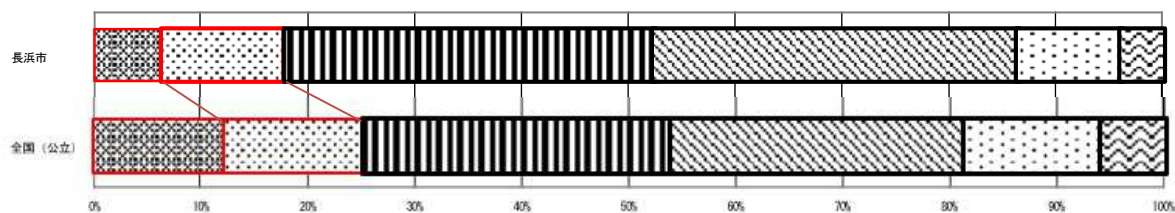
☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



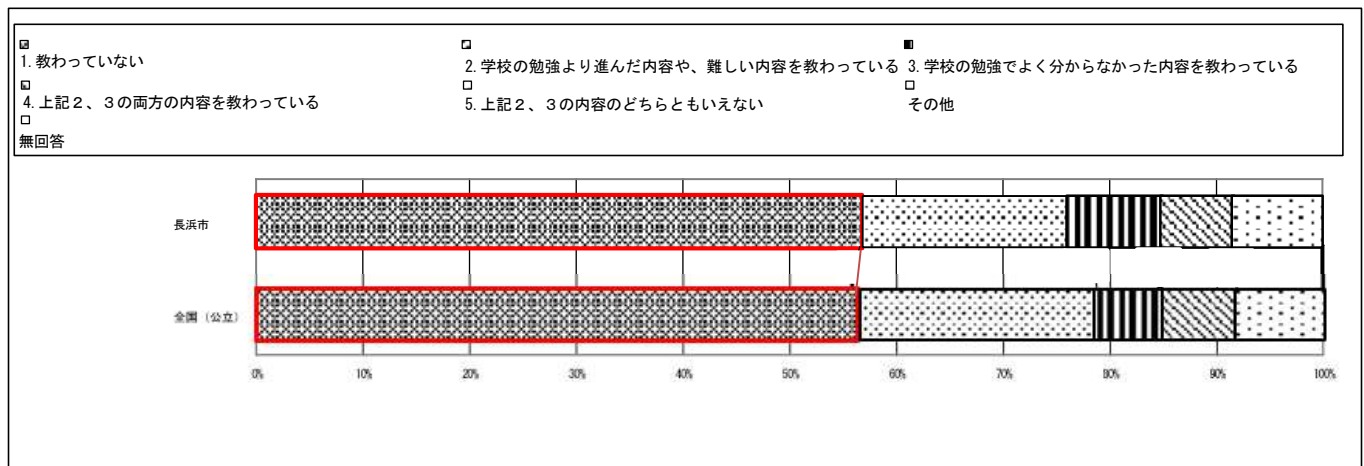
質問番号	質問事項											
(17) 全国比率との差大 昨年度同傾向	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	6.3	11.1	34.9	34.1	9.7	3.9					0.0	0.0
全国（公立）	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7					0.0	0.1

R7 長浜市 17.4% 全国 24.9% -7.5%
R6 長浜市 16.5% 全国 23.5% -7.0%

☐ 1. 3時間以上 ☐ 2. 2時間以上、3時間より少ない ☐ 3. 1時間以上、2時間より少ない ☐ 4. 30分以上、1時間より少ない ☐ 5. 30分より少ない ☐ 6. 全くしない ☐ その他 ☐ 無回答

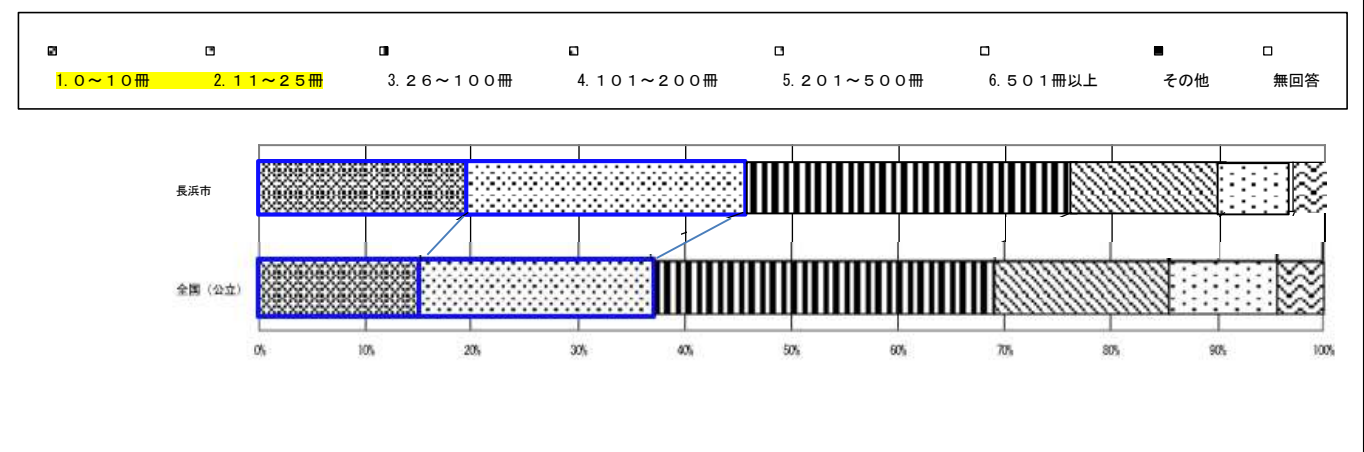


質問番号	質問事項											
(20)  昨年度調査なし	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	56.5	19.5	8.8	6.7	8.3						0.0	0.2
全国（公立）	55.9	22.6	6.3	6.8	8.2						0.0	0.2



質問番号	質問事項											
(22)  全国比率との差大 ほぼ同率差 昨年同傾向	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	19.5	25.8	30.8	14.4	6.5	3.0					0.0	0.0
全国（公立）	15.1	21.7	32.2	16.4	10.2	4.3					0.0	0.1

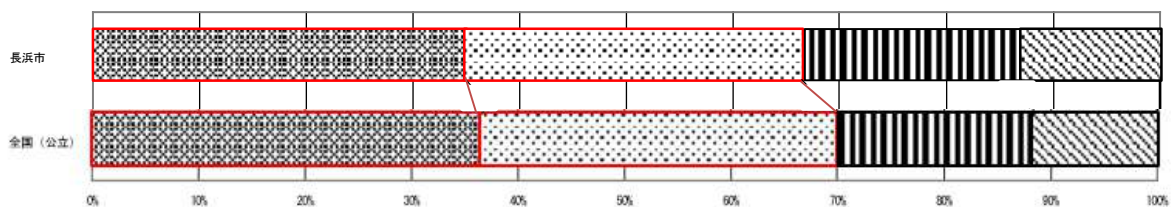
R7 長浜市 45.3% 全国 36.8% 8.5%
 R6 長浜市 44.9% 全国 35.9% 9.0%



質問番号	質問事項											
(24)  全国比率との差大 昨年度調査なし	読書は好きですか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	34.8	31.5	20.6	13.0							0.0	0.1
全国（公立）	36.4	33.3	18.5	11.7							0.0	0.1

R7 長浜市 66.3% 全国 69.7% -3.4%

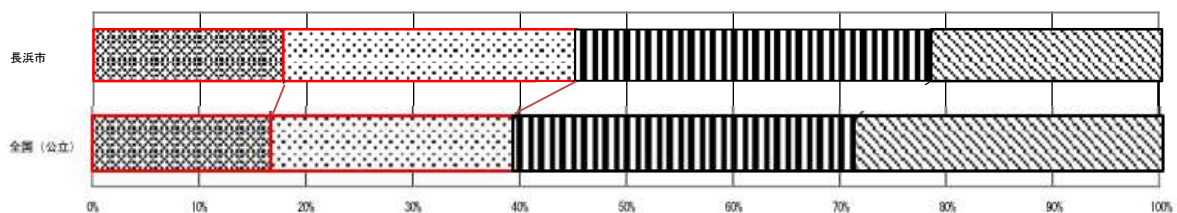
☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(26)  良好 昨年度調査なし	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	17.8	27.3	33.4	21.4							0.0	0.1
全国（公立）	16.7	22.7	32.0	28.6							0.0	0.1

R7 長浜市 45.1% 全国 39.4% +5.7%

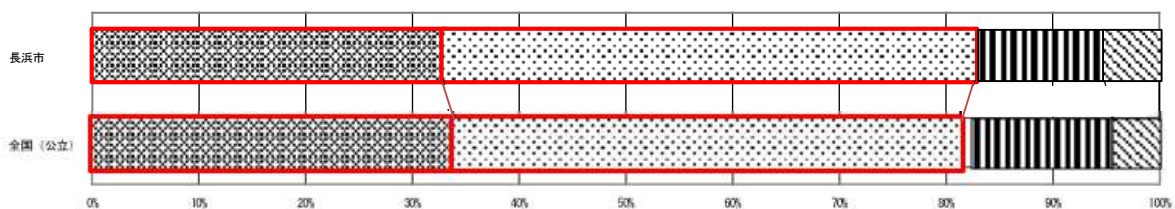
☐ 1. よくある ☐ 2. ときどきある ☐ 3. あまりない ☐ 4. 全くない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(27)  良好	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	32.8	49.8	12.1	5.3							0.0	0.0
全国（公立）	33.8	47.5	14.2	4.4							0.0	0.1

R7 長浜市 82.6% 全国 81.3% +1.3%
R6 長浜市 81.5% 全国 83.5% -2.0%

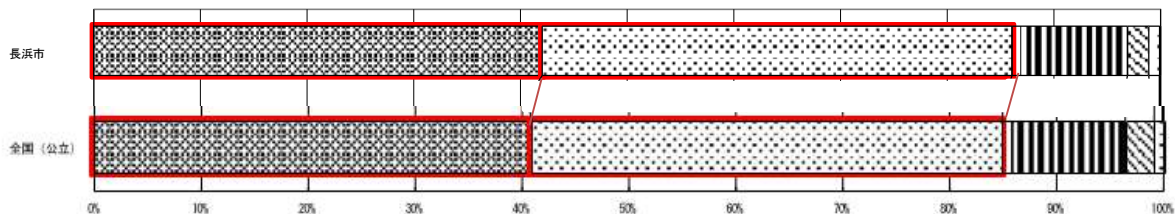
☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(35) 	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	42.0	44.0	10.8	2.0	1.0						0.0	0.1
全国（公立）	40.9	44.0	11.5	2.7	0.8						0.0	0.1

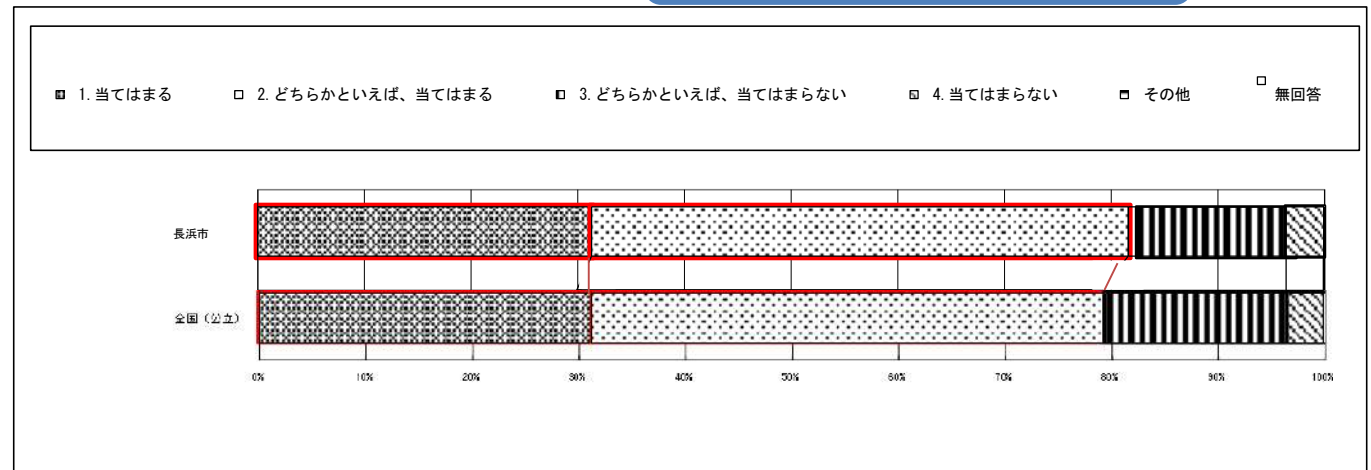
R7 長浜市 86.0% 全国 84.9% +1.1%
R6 長浜市 87.1% 全国 86.3% +0.8%

☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ 5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない ☐ その他 ☐ 無回答



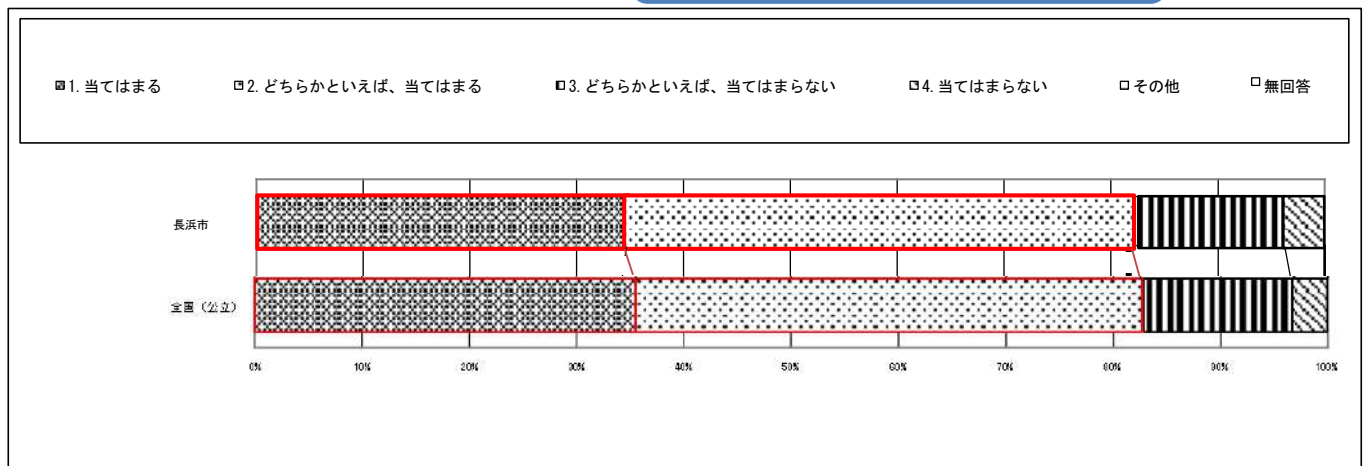
質問番号	質問事項											
(36)  良好	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	31.3	50.3	14.8	3.5							0.0	0.1
全国（公立）	31.2	48.2	17.1	3.3							0.0	0.2

R7 長浜市 81.6% 全国 79.4% +2.2%
R6 長浜市 80.5% 全国 80.8% -0.3%



質問番号	質問事項											
(37)  全国比とほぼ同率差	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	34.4	47.4	14.3	3.6							0.0	0.3
全国（公立）	35.5	47.0	14.3	3.0							0.0	0.2

R7 長浜市 81.8% 全国 82.5% -0.7%
R6 長浜市 82.4% 全国 83.7% -1.3%

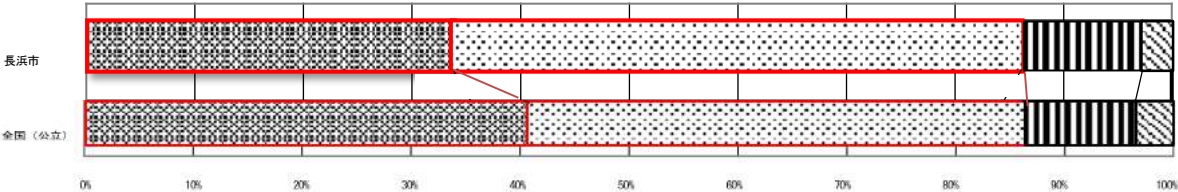


生徒質問紙 中学校72項目

質問番号	質問事項											
(5)  全国比率と ほぼ同率差	自分には、よいところがあると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	33.6	52.5	11.2	2.7							0.0	0.1
全国（公立）	40.7	45.5	10.5	3.2							0.0	0.2

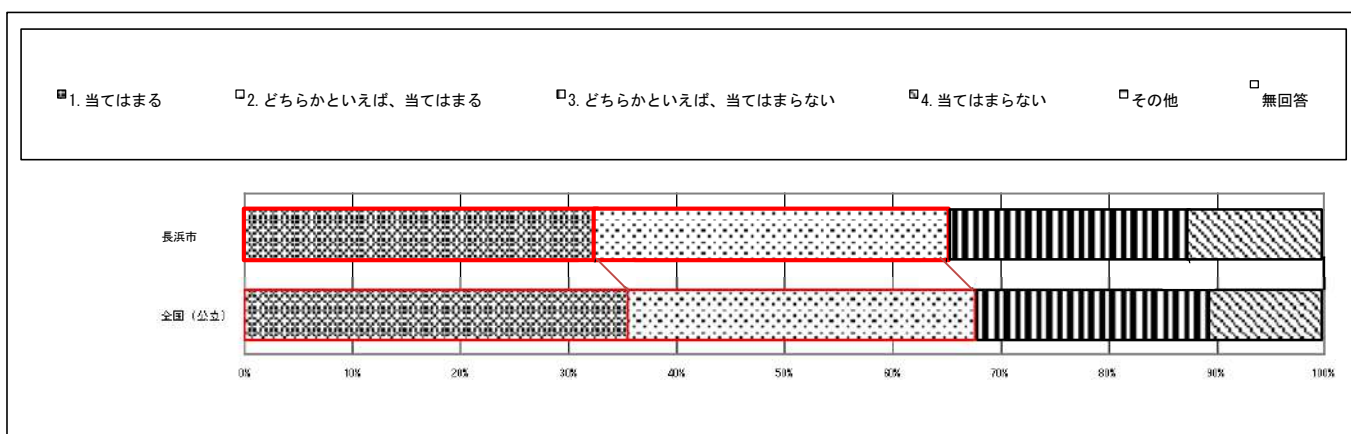
R7 長浜市 86.1% 全国 86.2% -0.1%
R6 長浜市 81.0% 全国 83.3% -2.3%

☒ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☒ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



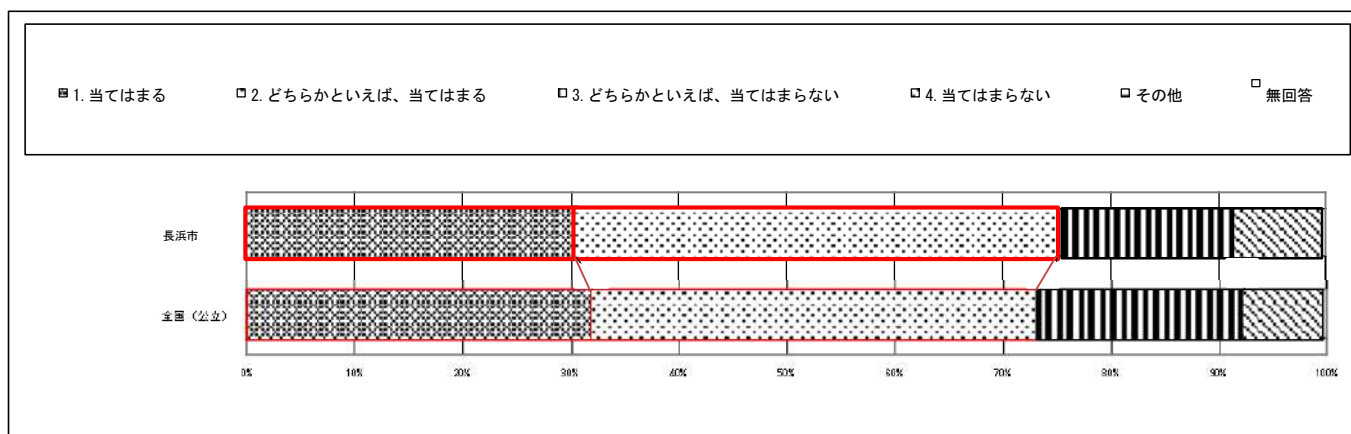
質問番号	質問事項											
(7)  昨年度 同傾向	将来の夢や目標を持っていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	32.4	32.5	22.4	12.2							0.0	0.4
全国（公立）	35.5	32.0	21.9	10.2							0.0	0.4

R7 長浜市 64.9% 全国 67.5% -2.6%
R6 長浜市 63.8% 全国 66.3% -2.5%



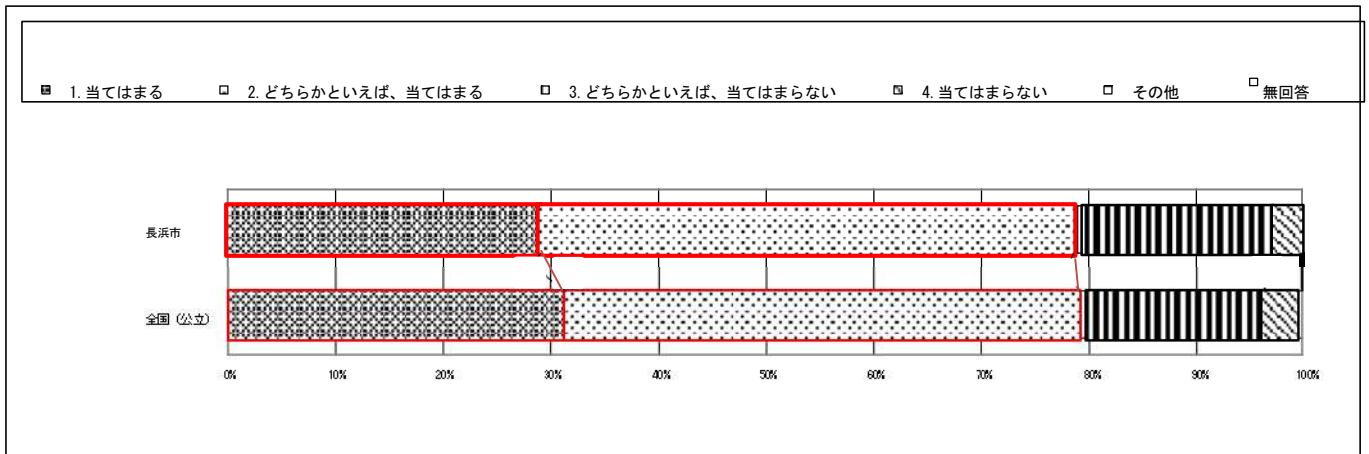
質問番号	質問事項											
(10) 	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	30.4	44.5	16.5	8.0							0.0	0.5
全国（公立）	31.9	41.3	19.1	7.3							0.0	0.5

R7 長浜市 74.9% 全国 73.2% +1.7%
R6 長浜市 72.5% 全国 67.5% +5.0%



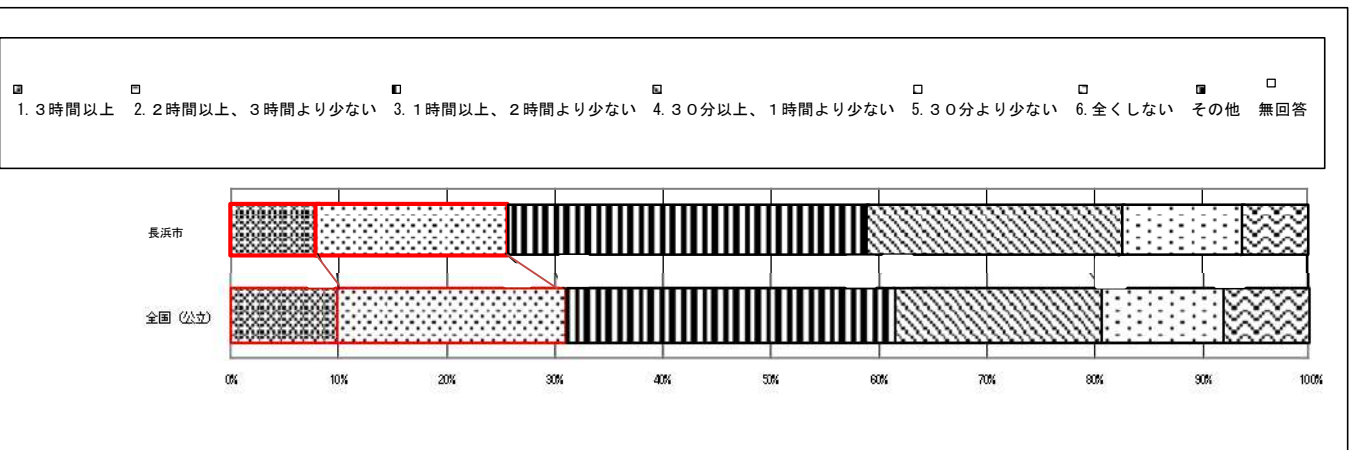
質問番号	質問事項											
(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか											
全国比率 とほぼ同率												
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	29.0	49.7	18.6	2.7							0.0	0.0
全国（公立）	31.4	47.8	17.1	3.3							0.0	0.4

R7 長浜市 78.7% 全国 79.2% -0.5%
R6 長浜市 78.8% 全国 76.2% +2.6%

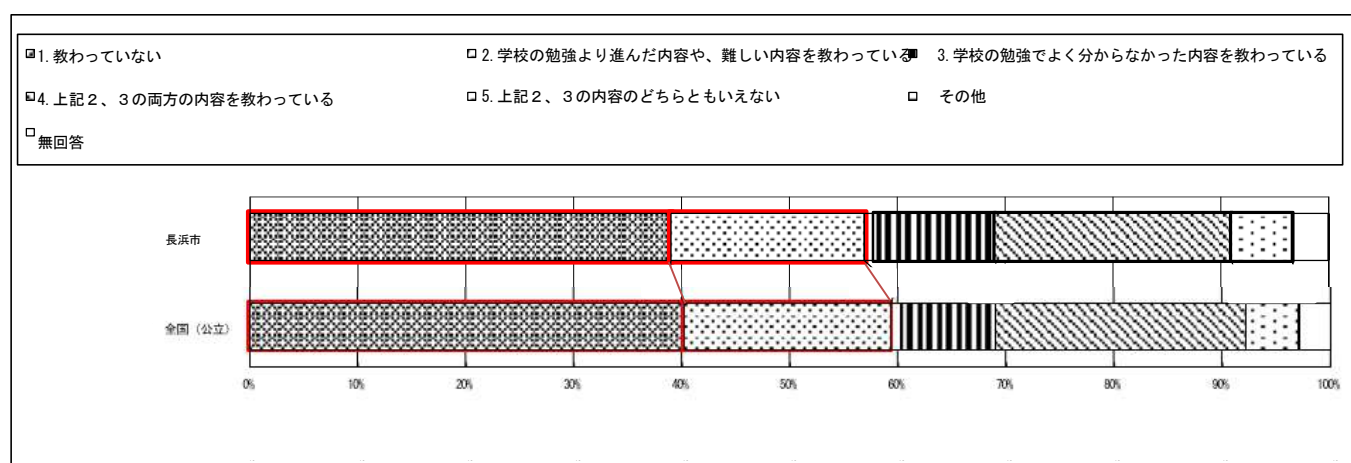


質問番号	質問事項											
(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
全国比率 との差大 昨年度より差はやや小												
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	7.9	17.4	33.6	23.7	11.1	5.9					0.0	0.4
全国（公立）	9.9	20.9	30.8	19.1	11.3	7.7					0.0	0.4

R7 長浜市 25.3% 全国 30.8% -5.5%
R6 長浜市 23.2% 全国 31.7% -8.5%

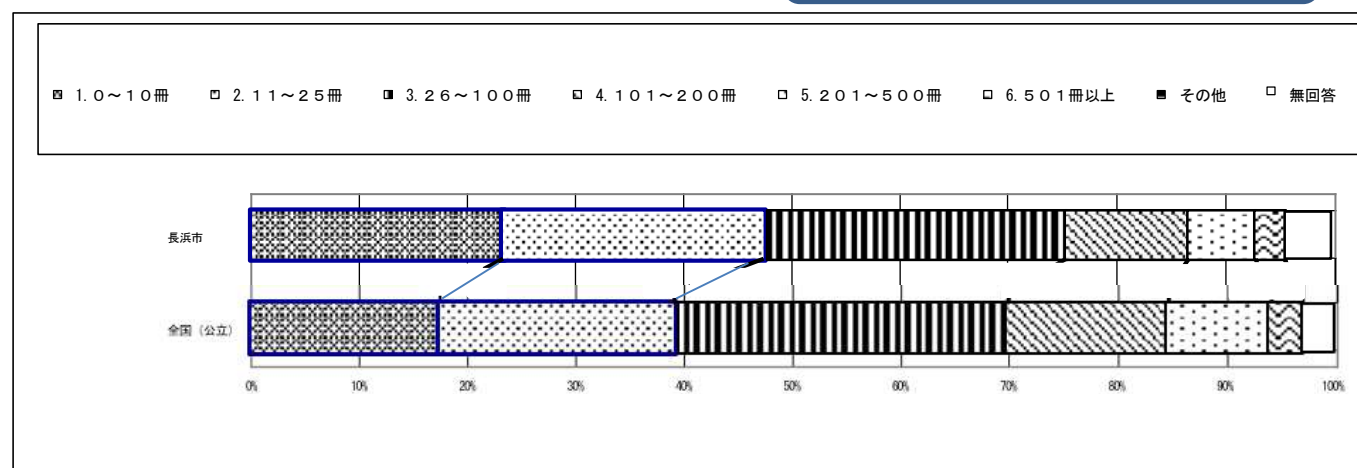


質問番号	質問事項											
(20)  昨年度調査なし	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場合も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	39.0	17.9	12.1	21.9	5.6						0.0	3.4
全国（公立）	40.2	19.1	9.7	23.2	4.9						0.0	2.9



質問番号	質問事項											
(22)  全国比率との差大 昨年度同傾向	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	23.3	24.2	28.1	11.4	6.2	2.7					0.0	4.3
全国（公立）	17.4	21.5	30.8	14.8	9.4	3.0					0.0	3.1

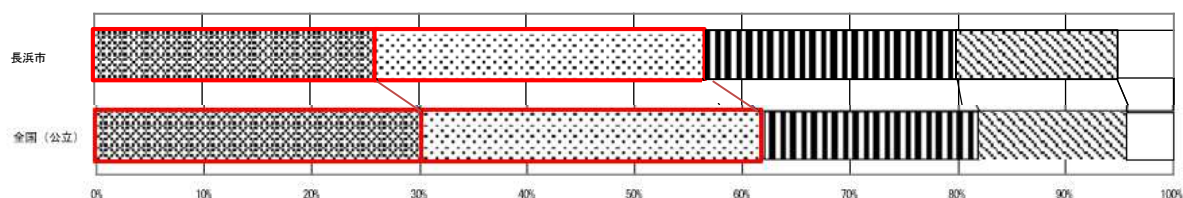
R7 長浜市 47.5% 全国 38.9% 8.6%
 R6 長浜市 47.3% 全国 39.6% 7.7%



質問番号	質問事項											
(24)  全国比率との差大 昨年度調査なし	読書は好きですか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	26.1	30.2	23.6	14.8							0.0	5.3
全国（公立）	30.3	31.3	20.5	13.6							0.0	4.4

R7 長浜市 56.3% 全国 61.6% -5.3%

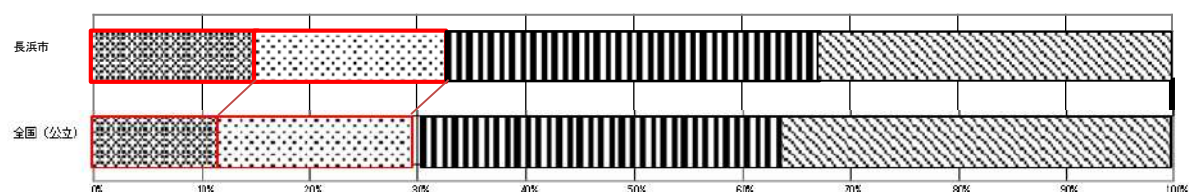
☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(26)  良好 昨年度調査なし	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	15.1	17.4	34.7	32.6							0.0	0.1
全国（公立）	11.7	17.8	34.3	36.0							0.0	0.3

R7 長浜市 32.5% 全国 29.5% +3.0%

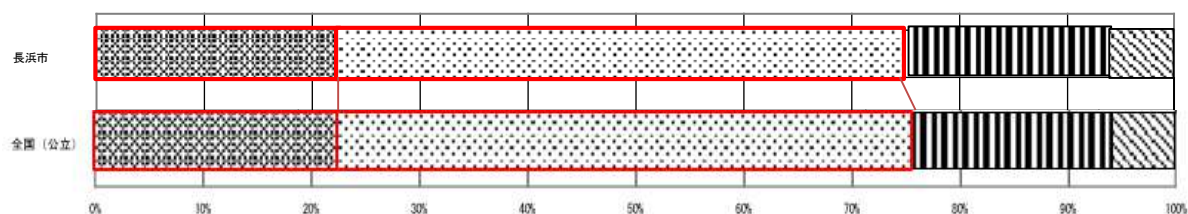
☐ 1. よくある ☐ 2. ときどきある ☐ 3. あまりない ☐ 4. 全くない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(27)  全国比率とほぼ同率	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	22.3	52.2	19.3	5.8							0.0	0.3
全国（公立）	22.4	52.9	18.8	5.6							0.0	0.3

R7 長浜市 74.5% 全国 75.3% -0.8%
R6 長浜市 78.2% 全国 76.1% +2.1%

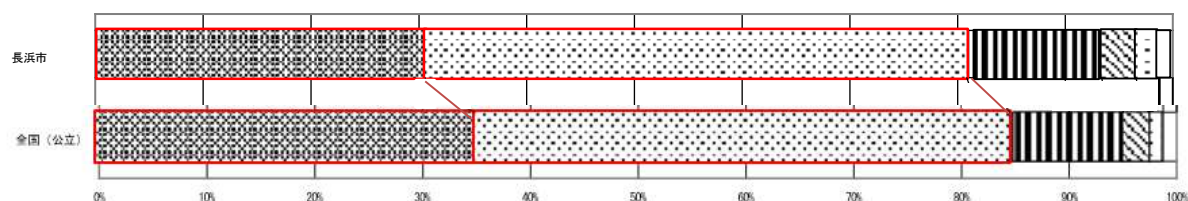
- ☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(35)  全国比率との差大	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	30.6	50.5	12.6	3.2	1.9						0.0	1.3
全国（公立）	35.1	49.6	10.5	2.5	1.1						0.0	1.2

R7 長浜市 81.1% 全国 84.7% -3.6%
R6 長浜市 84.5% 全国 86.1% -1.6%

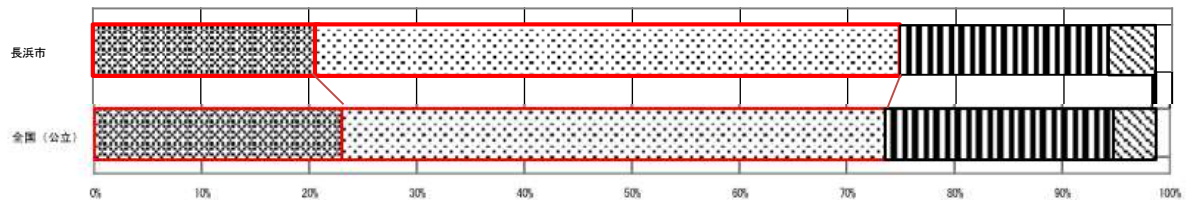
- ☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ 5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(36) 	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	20.6	53.8	19.7	4.1							0.0	1.8
全国（公立）	23.0	50.4	21.3	3.7							0.0	1.5

R7 長浜市 74.4% 全国 73.4% +1.0%
R6 長浜市 79.9% 全国 77.9% +2.0%

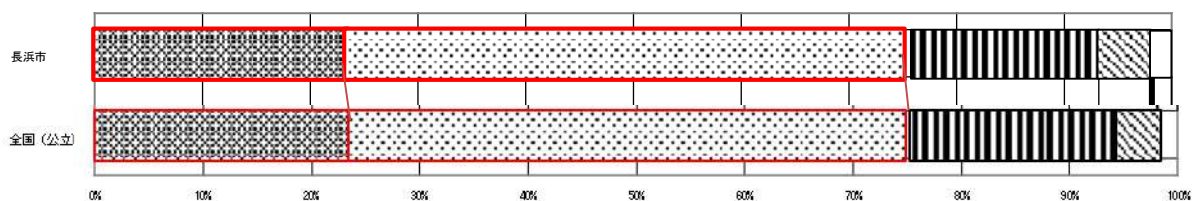
☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



質問番号	質問事項											
(37)  全国比率とほぼ同率	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
長浜市	23.3	51.7	18.2	4.8							0.0	2.0
全国（公立）	23.5	51.3	19.6	4.0							0.0	1.6

R7 長浜市 75.0% 全国 74.8% +0.2%
R6 長浜市 81.3% 全国 79.0% +2.3%

☐ 1. 当てはまる ☐ 2. どちらかといえば、当てはまる ☐ 3. どちらかといえば、当てはまらない ☐ 4. 当てはまらない ☐ その他 ☐ 無回答



児童・生徒質問紙の回答結果（主に長浜市と全国の比較）です。

- ・(10)「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の小学校の結果は、全国平均を大きく上回りました。中学校でも同様の結果がでています。安心して学校で過ごせる環境は、子どもたちが挑戦できる土台となり、学びを支えます。
- ・(17)「学校の授業時間以外の勉強時間」の結果から、小学校・中学校ともに勉強時間が少ないことが課題です。自己学習などに取り組む子どもと学力とは相関がある点でも、家庭学習の充実を図る指導や支援が必要です。
- ・(22)蔵書数について今年度も10冊から25冊という結果が、小学校・中学校ともに多いことがわかりました。さらに、(24)「読書は好きですか」について、肯定的な回答が低く、子どもたちの読書習慣の低下が明らかになりました。読書は各教科の言語活動を支える基盤です。本を身近に感じ、読書が好きになる取組が必要です。
- ・(26)「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり遊んでもらうことがあるか」の結果は、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。子どもたちが地域の大人と関わることは、多様な経験に触れ、学びや社会性を育むことにつながります。今後も学校・地域・市民全体で子どもたちの成長を支えていきたいと思います。
- ・(35)「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることがある」の結果は、小学校は全国平均を上回りました。さらに、(13)「自分の意見と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」についても、全国平均を上回っています。日頃の授業を通して、実感している児童が多いことがうかがえます。話し合い・発表などに取り組むことと、学力とは大きな相関があります。このことは校種に関係なく、中学校へ学年が進んでも力を入れて取り組む必要があると考えています。
- ・(36)「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の結果は、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。市内各校での取組の成果です。主体的に学習を調整できる子どもは、自ら課題を見つけ、学びを深めることができます。この学びに向かう力は、長浜市の目指す子どもたちの未来につながる「真の学力」でもあります。

調査結果を今後の教育実践や授業改善に活かしていけるよう努めます。

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査 各教科分析

〈資料〉

- ・小学校 国語
- ・小学校 算数
- ・小学校 理科
- ・中学校 国語
- ・中学校 数学
- ・中学校 理科

小学校 国語

3 複数の資料を読み、わかったことや考えたことをまとめる。

◎ 長浜市の児童が特に苦手とする問題

趣旨			学習指導要領の領域
設問一	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる。		第5学年及び第6学年 知識及び技能 (3)ウ
設問二	(1)時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえることができるかどうかをみる。		第1学年及び第2学年 思判表 C読むこと ア
	(2)事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて趣旨を把握することができるかどうかをみる。		第5学年及び第6学年 思判表 C読むこと ア
設問三	(1)目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる。		第5学年及び第6学年 思判表 C読むこと ウ
◎	(2)目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる。		第5学年及び第6学年 思判表 C読むこと ウ

設問三(2)		正答率(公立)
評価の観点	思考・判断・表現	3(二) 長浜市 52.1%・全国56.3%
問題形式	記述式	

【問題を通して】

・大問3では、言葉の変化について学ぶために、みんなで共通の資料を読み、一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことや考えたことをまとめる場面が設定されている。言葉が年月とともにどのような変化をするのかを調べる過程で、複数の資料を読んだり、友だちと話し合ったりしながら、自分が納得したことをまとめていく問題構成になっている。

・「読むこと」の領域として、「自分が一番納得したことをまとめる」という問題が出題された。【話し合いの様子】を受けて、問題の登場人物である木村さんの立場で「言葉の変化」について、自分が納得した理由を資料から言葉や文をとりあげて、まとめる問題である。複数の資料を読み比べて、必要な情報を取り出し、理由となる情報を適切に記述する力が必要である。(字数制限なし)

・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけるためには、文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要である。必要な情報は、目的に応じて変わるため、読む目的を明確にすることが必要である。言葉の変化について理由を含めて書くまでに、以下の段階を経ることが考えられる。

- ①【資料1】から納得したことを言葉や文を取り上げる。
②【資料1】で取り上げた内容に関わる理由を、【資料2】【資料3】【資料4】の中から選ぶ。
内容によって、必要な情報が異なる。取り上げた内容に適した情報が書かれている資料を選ぶ。
 (例)【資料1】「言葉は、年月とともに変化する」を取り上げる。
 (例)【資料2】「『新しい』を、大昔の奈良時代には、『あらたし』と言っていた」という理由に結びつける。
→下書きのスペースを活用して、書いてみる。
③まとめた文章を適した表現になっているかを見直す。
→(例)「なぜなら～からです。」「～と思いました。理由は、～からです。」などの表現にも着目する。(再構築)



【授業改善のポイント】

◆ 目的意識を明確にし、必要に応じて、適切な情報を見つける言語活動の設定

- ☐ まとまった文章を読んだり、複数の資料を読み比べるなど、必要な情報を見つける言語活動を取り入れる。(見つけた情報は、線を引くなど、視覚化することで整理しやすくなる。)
- ☐ 必要な情報は読む目的によって変わるため、子ども自身が読む目的を明確にしたうえで、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。「どこに、何が、どんな風に書かれているか」を自分なりに捉えさせる。



◆ 自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする指導の充実

- ☐ 見つけた情報からわかったことや、自分の考えをまとめたり表現する学習場面を取り入れる。
- ☐ 分かったことをまとめる活動では、「事実と感想」「意見」「根拠」とを区別して伝える(話す・書く)ことを意識させる。
- ☐ 友だちと学び合う学習活動を設定し、「なぜそう考えたか」という根拠を伝えさせる。友だちとのやりとりから、自分の考えが広がったり、新しい考えを生み出すことがある。こうした経験が、自分の考えをさらに深めていく。
- ☐ 友だちの書いた文章と、自分の書いた文章を読み比べて、書き表し方の工夫に気付くことがある。文章の構成や接続詞の使い方など、より良い文章にするための気付きが、表現力の向上につながる。

◆ 1人1台端末や学校図書館の効果的な活用

- ☐ ICTを活用して情報収集をしたり、本や新聞など、さまざまな資料を読み比べて、必要な情報を取り出していく力を養う。

上記すべての内容は、今年度の中学校国語に係る「授業改善のポイント」と重なる。小学校で大切に育てたい国語力は、中学校でも必要とされる力である。



【学校生活や家庭でできること】

- ☐ 国語の授業に限らず、日常的な活動でも自分の考えを伝える際には、理由や根拠を含めることを意識させる。
- ☐ 子ども自身の興味・関心が、主体的な学びの第一歩である。そうした気持ちがかきかけで、教科書・本・iPadを用いて調べるなど、自ら解決していく力が培われる。子どもたちの自発的な「知りたいこと」を大切にしていきたい。

2 伝統工芸品について推薦するちらしを書く

設問2ー	正答率（公立）
学習指導要領領域	第3学年及び第4学年 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと イ
評価の観点	思考・判断・表現
問題形式	選択式

・書く内容を中心に明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる問題である。

4読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いている。

3文章の筋道が整うように、原因と結果を明らかにして書いている。

2

伝えたいことの内容を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いている。

1読んでもほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている。

一山田さんは、文章の構成をくふうして「ちらし」を書いていきます。山田さんが文章の構成をどのようにくふうしているかを説明したものであるとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさは、どのようなものでしょう。

よさ1もよう

さまざまなもようがあり、好きなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。

しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2使い方

手などをふくだけでなく、身にかけたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

イあつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。
また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

2

山田さんの学級では、伝統工芸品についてぜひせんするちらしを書くことになりました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてぜひせんする文章を、次の「ちらし」に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

小学校 算数

4	日常の事象について伴って変わる二つの数量の関係に着目して考察すること (ハンドソープ)		
			◎ 長浜市の児童が特に苦手とする問題
趣旨		学習指導要領の領域	
	設問(1)	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量をみいだすことができるかどうかをみる	第3学年 A数と計算 (4)ア 第4学年 C変化と関係 (1)イ 第5学年 Dデータ活用 (2)ア
◎	設問(2)	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量をみだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。	第3学年 A数と計算 (4)ア C測定 (1)ア 第4学年 C変化と関係 (1)イ 第5学年 Dデータ活用 (2)ア
	設問(3)	はかりのメモリを読むことができるかどうかをみる。	第3学年 C測定 (1)ア
◎	設問(4)	「10%増量」の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。	第5学年 C変化と関係 (3)イ

設問4		正答率（公立）	
評価の観点	4(2)(4) 思考・判断・表現	4(4) 長浜市 33.5%・全国40.9%	
問題形式	4(2) 記述式 4(4) 選択式		

【問題を通して】
・大問4は、[知識及び技能]と[思考・判断・表現]の二つの内容から出題されている。
・日常生活の問題を解決するために、日常の事象について伴って変わる二つの数量関係に着目して考察する設問である。大問4では、普段使っているハンドソープの液体の量とハンドソープを押す回数との関係や、「10%増量」のハンドソープは増量前の何倍かを考えるなど、日常生活に結びつきやすい問題である。
・4(2) の問題について
・液体の量の代わりに重さに着目した場面で、解答に到るまでにいくつかの過程が必要となる。
① わかっている情報を整理する。 →使いかけのハンドソープの重さは、270gである。
② 使いかけのハンドソープが空になるために、ほかに必要な情報を考える。 →ハンドソープの容器の重さがわかると、「液体の重さ」がわかる。 →使いかけのハンドソープの「液体の重さ」がわかると、「1プッシュ分の液体の重さ」がわかれば、あと何回プッシュすればよいか計算できる。 →記号で選ぶ。
③ ②で選んだ内容と270gを使って、『空になるまであと何プッシュできるか』の求め方を指揮や言葉を使って書く。
・4(4) の問題について
・「増量前の量」を100%とすると、10%増量した「増量後の量」は110%になることを基に、1.1倍であると捉えなおす状況が設定された。正問の1.1倍ではなく、0.1倍という誤答が多かった。数量の関係を正確にとらえることが苦手な傾向がある。

【授業改善のポイント】
◆説明する文から得られる情報を、確かに取り出す。
□ 問題で求められていることを理解するためにも、文章題に慣れさせる。文章問題の内容を読み取り、授業の中で大事な情報(数字、キーワード)を取り出すトレーニングを行う。(線を引くなどの工夫をする)
◆数量の関係に着目し、捉えなおして表現ができるようにする。
□ 10%を0.1と考え、誤答する児童が多かった。元の量の何倍になっているかを比較するには、授業で割合の意味や表現の意味を捉えさせる。
□ 日常生活の中でもみられる「10%引き」「50%オフ」「30%増量」など、倍を使って捉えなおし表現できる問題に触れる機会を増やす。日常に関連したさまざまな問題を解いて、イメージさせる。
◆自分の考えを深めたり、記述したり表現したりする指導の充実
□ 友だちとの学び合いの中で、つまづいた部分や誤答も含めて考える機会を充実させる。相手に伝わる説明の仕方を追求したり、友だちの考え方と比較する場面も増やす。(自分の考えを深めたり、整理することにもつながる。)
□ 必要な情報から、筋道を立てて考え、求め方を式や言葉を用いて記述できるようにする。そのために、4(2)のように、いくつかの段階を経て答えにたどり着くような問題に取り組む機会を設ける。
☞一見難しく感じる問題も、段階ごとにいままでの基礎的な学びを応用すれば、決して解けない問題ではない。特にこうした問題こそ、友だち同士で学び合う活動が理解を進めるきっかけとなることがある。
□ 自分なりの解決の過程をノートなどに記述しておくことが、自分の思考を整理することに役立つ。

【学校生活や家庭でできること】
□ 日常生活の中でもみられる「10%引き」「50%オフ」「30%増量」など、倍を使って捉えなおし表現する機会を設ける。算数は「学習」としてのみならず、実生活にも結びついた役立つ学びであるという意識を高める。
□ 日常生活の中で出会う「なぜ?」「なに?」「どうなるの?」という興味や関心、疑問を学校生活や家庭生活でもさらに調べたり、追究しようとする姿勢を大切に育てたい。

小学校 算数



3 計算の仕方について統合的・発展的に考察すること(小数と分数)

設問		正答率（公立）
学習指導要領領域	第5学年 A 数と計算（5）ア	長浜市 83.2％・全国81.3％
評価の観点	知識・技能	
問題形式	短答式	

・異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題である。分母の最小公倍数である数を用いて、通分し、計算することがよくできている。

(4) $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算しましょう。

2 電気の性質を活用したものづくり(エネルギーに関する問題)

◎長浜市の児童が特に苦手とする問題

趣旨			学習指導要領の領域
	設問(1)	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられるものがあることの知識が身に付いているかどうかをみる。	第3学年 A物質・エネルギー (4)ア (5)イ
	設問(2)	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。	第3学年 A物質・エネルギー (5)ア
	設問(3)	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わるものの知識が身に付いているかどうかをみる。	第5学年 A物質・エネルギー (3)ア
◎	設問(4)	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。	第4学年 A物質・エネルギー(3)ア

設問4		正答率（公立）
評価の観点	2(4) 知識・技能	2(4) 長浜市 46.2％・全国55.1％
問題形式	選択式	

【問題を通して】

・大問2は、[知識及び技能]と[思考・判断・表現]の二つの内容から出題されている。

・電気の性質を利用して、相手に剣を先に当てたかを音や光で知らせているフェンシング競技に興味をもち、これまでに学習した電気の性質を利用してフェンシングのおもちゃをつくることについて話し合いをしている。その際、自分の剣を相手に当てたときにベルが鳴るようにする方法や工夫について科学的に探究し、問題を解決していく学習場面を設定されている。

・2(4) の問題について

・乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを構想できるかを問うものである。乾電池のつなぎ方を変えると電流の大きさや向きが変わるなど、直列つなぎ、並列つなぎの特徴を知識として身に付けていることが求められる。

・解答の選択肢2は、もっとも多い誤答であった。乾電池2個を並列に並べた図で、電極の向きが短絡(ショート)回路となる誤ったつなぎ方となっている。このことから、複数の乾電池のつなぎ方、電磁石の強さを最も強くする乾電池のつなぎ方に関する知識を身に付けることに課題があると考えられる。

【授業改善のポイント】



◆ 問題解決の力の育成を意識した指導の充実

- 子ども1人ひとりが自分で仮説を立て、実験方法を考えるなど、各場面で自分で判断する時間を充実させる。教師が先回りして教えるのではなく、予想や仮説と結果の比較を自分でまとめていくような場面をつくる。
- 実験の結果を基に、自分なりの結論をもち、友だちと交流をする場面を設ける。（考えを持たせてから、交流することで友だちとの共通点や相違点を見い出すことができる。友だちとの学び合いの過程で、自分なりの考えを科学的な条件を満たす考えとして練り上げていけるようになる。）
- 教師は、単元ごとに判断を子どもたちにゆだねる場面を絞り込むなど、何をどのように学ぶかを明確にした計画をたてる。



◆ 知識を概念的に理解するための指導の充実

- 観察、実験したことを言葉で説明したり、図に整理したりするなど、知識と関連付けて理解を深めさせる。単なる事実としての知識で終わらず、自分の言葉で説明し、知識をほかの学習や生活に関連付けて考えてられるような場面を設定する。

【学校生活や家庭でできること】



- 身の回りで電気を効率よく使っている場面に目を向けてみるなど生活に結び付ける意識を大切にしたい。（目に見えない電流が、ここに流れているという見方が、接触不良や配線の間違いなど、新たな気づきにつながる可能性がある。）
- 日常生活の様々な体験が、理科の学びにつながっていることがある。体験を通して実感を伴った理解は、単なる知識の暗記よりも深い理解につながる。また、「どうして～なるのか」「どうして～が起こるのか」という新たな問いを大切にする。

小学校 理科

3 花のつくりや受粉、発芽の条件(生命に関する問題)



設問(2)

正答率(公立)

学習指導要領領域	第5学年 B生命・地球 (1)ア
評価の観点	知識・技能
問題形式	選択式

長浜市 51.1%・全国45.6%

・ヘチマの花を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための技能が身に付いているかという問題がよく理解できている。

でるみさんたちは、ヘチマの花粉をけんび鏡で観察することになりました。



けんび鏡を操作すると、観察する物の見え方が変わるね。



(2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか。下の 1 から 4 の中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

	操作する前	操作した後	
キ			2
ク			4

- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

1 案内文を書く(美術展のちらし)

◎長浜市の生徒が特に苦手とする問題

趣旨			学習指導要領の領域
	設問一	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかみる。	第2学年 知識及び技能 (1)ウ
	設問二	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。	第1学年 思判表 B書くこと ア
	設問三	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。	第1学年 思判表 B書くこと イ
◎	設問四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。	第1学年 思判表 B書くこと ウ

設問四		正答率 (公立)
評価の観点	思考・判断・表現	1(四) 長浜市 59.0%・全国63.3%
問題形式	記述式	

【問題を通して】

- ・大問1は、美術展の案内文を書く問題である。目的に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしながら読み手(小学校6年生)によりよく伝わる文章になるように、改善をしていく問題構成になっている。
- ・特に伝えたいことについて根拠を明確にして書くことが求められる問題である。目的に応じて必要な情報を選び、情報と情報の関係がわかるように書くことが必要である。また、読み手の立場に立って手紙を書いたり、手紙を読み直し、文章を整える力も問われた。字数制限は設けられていない。
- ・ここでは、昨年美術展に来場した小学校の感想をもとに、今年の工夫を伝える文章を書くことが必要となる。実際に自分の考えを書くまでに、以下の段階を経ることが考えられる。
 - ① 今年の美術展の【工夫】と、昨年度の小学生の【感想の一部】を結びつけ、記号で答える。
→ここで、「伝えたい内容と明確な根拠」を自分の中で整理する。
 - ② 選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を基に、文章を書く。
→下書きのスペースを活用して、書いてみる。
 - ③ 自分の文章を読み直し、【工夫】と【感想の一部】が結びついているか、接続する語句や指示する語句を用いて相手に伝わりやすい文章となっているかを再構成する。
→実際に解答用紙に書く。



【授業改善のポイント】

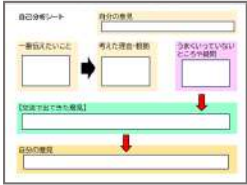


◆ 自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする指導の充実

- 友だちとの対話を通じて、自分の考えを広げ深めたり、新しい考えを生み出すことができる学習活動を設定する。また、自分の考えを伝える際には「考えを伝える」だけで終わらず、「なぜその考えに到ったのか」という根拠を伝させる。
- 自分の書いた文章を丁寧に読み返すことを習慣づける。
(読み返すことで、条件である「根拠と自分の考え」が含まれているか、接続詞など既習の知識や技能が生かされているか、簡潔にわかりやすく書けているかなど、より良い文章となるように整える力が養われる。)
- 自分の考えをまとめ、記述するためには、まず考えを整理することから始まる。目的・伝えたい相手(対象)・方法に加え、一番自分が伝えたい事柄とその根拠を自分の中で明確に持つ。

(例)自己分析シート

- 自分の考えを明確にするために、シートを使って整理する。
 - ① 事前にICTを用いて自分の考えを整理する。伝えたいこと、根拠や理由、うまくいっていいこと・疑問などを視覚化できる。
 - ② さらに調べたり、友だちの言動から得た気づきや意見を基に、自分の考えをさらに深めていく手立てとなる。
(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還)



上記のような取り組みを経て、自分の文章を見直し、改善していくこと(再構築)が、表現力の向上につながる。さらに、国語科に限らず、どの教科でも意識することで、生徒の考えをまとめ、伝える力は向上する。

◆モデルとなる文章に触れる場面の充実

- この問題は「書くこと」の領域の内容だが、「読むこと」から書き手の意図や文章構成などを考える機会が増える。「読むこと」で得た知識や理解は、「書くこと」にも反映し、表現力を高める。例えば、友だちの文章を読む機会を充実させることが書く力の土台として役立つ。
(「読むこと」と「書くこと」の活動は相互に影響し合い、国語力の向上につながる。)
- 「書く力の基礎づくり」として、人の文章を模写する方法がある。文体や文章の流れ、句読点の打ち方や根拠の示し方、展開の仕方や情報の取捨選択など、文章力の基礎が身につく。1日数行でも自分の興味のある本や文章力が高いと思う本などを書き写すことは、基礎づくりとして取り組みやすい。

◆1人1台端末や学校図書館の効果的な活用



- 根拠の示し方を様々な調べ方から学ばせる。自分の体験から示す場合もあるが、ICTを活用して調査データ(数字)や専門家の見解を調べたり、本などの資料から引用したりする。
(学校図書を活用したり、ICTで最新データを調べ、根拠を示すことが自分の意見に説得力を持たせる方法を学ぶことができる。)
- ICTを活用し、クラウド上に文章を保存し、共有することで、友だち同士が読み合う(他者参照)。また、チャットやコメント機能を活用し、質問や友だち同士で評価をすることができる。

【学校生活や家庭でできること】

- 授業の「ふりかえり」や日記など、日常的な活動でも自分の考えを伝える際には、理由や根拠を含めることを意識させる。
- 自分の意見を持つ機会を充実させる。ニュースや記事などをもとに、自分の意見を書いたり、伝えたりする機会は、他教科や教育活動全体、家庭でも取り組むことができる。また、自分の意見に対する反応を得ることが、生徒にとっての成長につながったり、見つめ直す機会となることがある。



中学校 国語

1 文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる

設問		正答率（公立）
学習指導要領領域	第2学年 知識及び技能(1)ウ	長浜市 32.4％・全国35.2％
評価の観点	知識・技能	
問題形式	選択式	

・「どれもかいしんの出来です。」の「かいしん」の意味は、「心になんて満足すること」という意味の「会心」が解答である。「会心」「改心」「改新」のいずれを使うか、正しく判断して選ぶ問題において、全国正答率との差は、－2.8％という結果だった。

・大問4(二)にも、手紙の下書きから修正部分を見つけ出す問題があった。これは誤った漢字表現である「専門的」を「専門的」に書き替えるものだが、全国正答率との差は-4.4％であった。知識・技能を、文脈から自分で見つけ出し、訂正する思考・判断・表現の力までさらに高めていけるとよい。

ー 中井さんは、【ちらし】の——線部「かいしん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までのの中から1つ選びなさい。

- 1 会心
- 2 改心
- 3 改新

8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立てて解決すること
(新しい駅)

趣旨			学習指導要領の領域
◎	設問(1)	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかをみる。	第1学年 C関数 (1)ア
◎	設問(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明することができるかどうかをみる。	第1学年 C関数 (1)イ

◎ 長浜市の生徒が特に苦手とする問題

設問(1)(2)		正答率(公立)	
評価の観点	8(1) 知識・技能 8(2) 思考・判断・表現	8(1) 長浜市 69.5%・全国71.9%	
問題形式	8(1) 選択式 8(2) 記述式	8(2) 長浜市 30.5%・全国38.0%	

【問題を通して】

・大問8は、[知識及び技能]と[思考力・判断力・表現力]の二つの内容のまとまりで、一体的に出題されている。

・日常生活や社会の事象を考察する場面において、事象の中から取り出した二つの数量を既習の関数とみなし、問題を解決することが求められる場合がある。この問題では、①A駅から各駅までの走行距離と運賃の関係について調べ、②調べた結果を基にA駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるのかを予測する場面を取り上げた問題である。

・8(1) A駅からの走行距離と運賃のグラフから、C駅とD駅の間の走行距離を読み取る状況が設けられた。

・8(2) 走行距離と運賃の関係をグラフに表した際の点の並びが一直線上にあると考えることで、その関係を比例とみなし、新しい駅の運賃を求める方法を説明する文脈が設定された。

解答にいたるまでに、以下の段階が必要と考えられる。「用いるもの」によって、「用い方」が異なってくる。

① A駅から60.0kmの地点に作られる新しい駅のおよそ運賃を求めるために、「用いるもの」を明確にする。
→(例1) 直線のグラフ
→(例2) 比例の式または一次関数の式
→(例3) 表や数値を用いて求めた割合

②自分が決めた「用いるもの」の「用い方」を記述する。
→(例1の場合) 点Aから点Eをもとに、直線のグラフをかき、x座標が60のときのy座標を読む。
→(例2の場合) 対応するxとyの値をもとに、xとyの関係を比例の式で表し、その式にx=60を代入し、yの値を求める。
→(例3の場合) 表の数値を用いて、割合と求める。A駅からの走行距離が60.0kmになるときの運賃を求める。1kmあたりに約18.4円増加することを用いて、運賃を計算する。

【授業改善のポイント】

◆説明する文から、求められていることを的確に理解する場面の設定

□ 文章問題の内容を読み取り、大事な情報(数字、キーワード、条件)を取り出す工夫をする。
(文章を読み解く力は、数学にかかわらずどの教科でも意識して指導することで養うことができる。)

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する学習の設定

- 授業では、教師による説明に偏らず、生徒が思考する展開を大切にする。さらに、友だちと一緒に問題を解決する場面を設け、自分が解決に至った方法や手順を的確に相手に伝え合う活動を取り入れる(協働的な学び)。
- 8(2)の解答のように問題解決の方法が1つに限らない場合がある。友だちとの交流を通して、自分の考えを深めたり、比較して、新たな視点を得る。活動後に、自分で考えを再構築する時間を授業に取り入れる。
- 「用いるもの」(表、式、グラフ)を明確にしたうえで、その「用い方」(この問題の場合は『x座標がある値になるときのy座標の値を読み取る』など)を記述したり説明したりする場面を設定する。さらに、自分の考えを文字起こす(記述・タブレット入力)ことで、解答への必要条件(正問の条件)を満たしているかを客観視し、確認する過程が、理解を深める手立てとなる。

◆1人1台端末の効果的な活用

- 一次関数の表やグラフ、図形領域では図形をディスプレイ上で性質を見いだすなど、ICTを活用する場面を適切に選択する。
- 一人一人が自分で考え、ICTを使いながら推測することや、思考や考えを友達と共有するなど、主体的・対話的な学びのために活用することができる。

【学校生活や家庭でできること】

- 実生活でも数学の学習、数学的处理が役立つことに気付かせる。
(例:携帯電話料金プランは、使用時間と料金を一次関数を用いて考えられる。)
- 子どもに自分の考えを聞くとときに、理由を含めて聞くように心がける。
- まとまった文章をあきらめずに読む姿勢は、日頃から読み慣れる経験も役立つ。読書や要約などの経験が、問題を的確に理解する力にもつながる。

中学校 数学



5 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる

設問	第1学年 Dデータ活用 (1)ア	正答率 (公立)
学習指導要領領域	第1学年 Dデータ活用 (1)ア	長浜市 43.1%・全国42.5%
評価の観点	知識・技能	
問題形式	短答式	

- ・与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができるかをみる問題が、全国平均とほぼ同率(+0.6)で理解できている。
- ・今回の「中学校 数学」の問題は、学習指導要領から「A 数と式」「B 図形」「C 関数」「D データの活用」の4つの領域から構成されている。その領域の中で、長浜市の平均正答率をみると、この問題のように「Dデータ活用」が最も全国平均正答率との差が小さい。

【D データ活用】 全国平均正答率 58.6%・長浜市平均正答率 56.3%

- 5 下の表は、ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表です。

ハンドボール投げの記録	
階級 (m)	度数 (人)
以上 未満	
5 ～ 10	3
10 ～ 15	8
15 ～ 20	9
20 ～ 25	10
25 ～ 30	6
30 ～ 35	3
35 ～ 40	1
合計	40

解答 0.25

20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求めなさい。

*相対度数は、各階級が全体のデータの中でどれくらいの割合を占めるかを表します。

相対度数 = 各階級の度数 ÷ 全体の度数の合計

中学校 理科

*今回の分析は、全日程に共通する問題から考えている。

1 水をテーマに科学的に探究する

趣旨			学習指導要領の領域
	設問(1)	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技術が身についているかどうかをみる。	第1分野 (3)電流とその利用 (ア)電流㉔
◎	設問(2)	身の回りの事象から生じた疑問や見出した問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる。	第1分野 (2)身の回りの物質 (ア)物質のすがた㉔
	設問(3)	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる。	第2分野 (2)大地の成り立ちと変化 (ア)身近な地形や地層、岩石の観察㉔
	設問(4)	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身についているかどうかをみる。	第2分野 (3)生物の体のつくりと働き (ウ)動物の体のつくりと働き㉔
	設問(5)	塩素の元素記号を問うことで、元祖を記号で表すことに関する知識及び技術が身についているかどうかをみる。	第1分野 (4)化学変化と原子・分子 (ア)物質の成り立ち㉔
○	設問(6)	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる。	第1分野 (2)身の回りの物質 (ア)物質のすがた㉔

設問(2)		正答率(公立)
評価の観点	思考・判断・表現	(2) 長浜市 38.4%・全国46.2%
問題形式	記述式	

【問題を通して】

- ・この問題では、「理科の実験では、なぜ水道水ではなく、精製水を使うのか」という生徒の見出した疑問を解決するために、理科の授業で科学的に探究する場面が設定されている。日常生活や社会との関わりの中で、水に関する事象をこれまでに学習した力を活用し、物事を様々な角度から見て全体を把握したり、複雑な問題を解決するために思考することが求められている。
- ・中学校の理科は、文部科学省CBTシステム(MEXBIT)によるオンライン方式(*CBT)で実施された。動画やアニメーション画像など、多様な方法で出題された。また、*IRT(項目反応理論)を用いた結果返却が行われた。
*CBT(computer based testing) *IRT(Item Response Theory)
- ・CBTの問題は、公開問題と非公開問題の組み合わせで構成されている(全26問)。
〈公開問題〉全日程に共通する問題・・・【1】16問のみ
実施日により異なる問題・・・16問(実施日ごとに4問×4日)
〈非公開問題〉16問

・1(2)【Aさんの疑問】「なぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という疑問を解決するために、以下の2つの条件を満たす内容を記述しなければならない。

- ① 水道水と精製水の両方の性質に着目すること
→ (例) 水道水と精製水の性質にはどのような違いがあるのか。
- ② 【Aさんの疑問】を解決しようとする課題になっていること
→ (例) 水道水と精製水の違いを調べよう。

【授業改善のポイント】

◆ 科学的な探究の課題に取り組む中で、理科の資質・能力を身につける

- ☐ 理科を学ぶことの意義や学習したことが生活や学習の中で役にたつという有用性を感じさせることで、学習意欲を高めていく。
- ☐ 身近な自然の事象から見出した問題を解決するための課題を設定し、実験を行う場面を設定する。
- ☐ 1人ひとりが【課題・問題】の設定、【予想】【実験】【結果】、【まとめ】【考察】という流れを意識した計画を行う。(自分自身で問いを持たせる場面を設定することが、探究的な学びにつながる。)
- ☐ 学習内容の特質に応じて、探究的な授業を行う単元構想や工夫・手立てを考える。

◆ 学んだことを基に、自分の考えを深めたり、記述したり表現する指導の充実

- ☐ 身につけた知識や技能を活用し、理科の見方・考え方を働かせ、実験や観察の結果がどのようになるかの予想を説明したり、結果を分析させる。
- ☐ 自分が得た結果を基に、自分の考えを説明したり、友達の考えと比較できる場面を設ける。(作成したレポートを読み合ったり、生徒同士で発表させるなど)
→ 学び合うことで多角的な視点を取り入れることができ、自分の考えを客観的に捉えることができる力(考察の妥当性)が高まる。
- ☐ 「振り返り」の時間を設定し、具体的な視点を持った振り返りができるように指導する。
・疑問に感じたことや調べてみたいこと
・はじめの考えから考えが変化した点
・身近な生活とのつながりについて感じたこと など

◆ 問われている条件を正確に把握し、必要な条件を明確に満たしているか確認する

- ☐ 日頃から記述問題に取り組むことで対応力が高まる。
(わからずに解答できていない生徒もいるが、条件の一部しか満たしていないために正解に至っていない場合がある。)

【学校生活や家庭でできること】

- ☐ 自然現象等、科学的・理科的な書物や展示等に触れる環境や体験を持たせる。
- ☐ 日常生活の中に、理科の内容に関わるたくさん潜んでいる。身の回りの「なぜ」を大切に、学校で学んだ理科を生活と結びつけて考えると、より理科への興味が育つ。
- ☐ 興味・関心を追求できる環境をつくる。

中学校 理科

1 水をテーマに科学的に探究する



設問(1)	正答率(公立)
学習指導要領領域	第1分野(3)電流とその利用(ア)電流⑦
評価の観点	知識・技能
問題形式	選択式

・電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する内容が理解できている。

・回路全体の抵抗が大きいのは、直列につないでいる装置1で、発生する熱量が大きいのは、抵抗の値が小さい装置2ということを捉えている。

1

理科の実験で使用する水について考える

理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。

精製水は、お湯のように水道水に電熱線を入れて水を加熱し、蒸発する方法でつくられることが多いです。

電気エネルギーを利用して水を加熱しているんですね。水は温まりにくいから、効率よく温める工夫が必要ですね。

より速く水を温めるには、**電熱線**をどのようにつければよいでしょう。おの装置で考えてみましょう。

同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えればわかります。

装置1: 10Ωの電熱線と50Ωの電熱線が直列に接続されている。
装置2: 10Ωの電熱線と50Ωの電熱線が並列に接続されている。

(3) 回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選べない。また、3装置について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選べない。

回路全体の抵抗が大きい: 装置1から選択 速く水が温まる装置: 装置2から選択

回路全体の抵抗が大きい(装置1)・速く水が温まる装置(装置2)

小学校第6学年
国語

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから17ページまであります。問題用紙のあいている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB以上のこさの黒えんぴつ（シャープペンシルも可、ボールペンは不可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、45分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があります。解答時間終了後、先生の指示で回答しましょう。

3

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

（文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。）

（文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。）

- ※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。
- ※2 「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。
- ※3 「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

一 木村さんは、【資料1】を読み、次の【木村さんの経験】を思い出しました。木村さんが経験を
通して気づいたこととして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を
書きましょう。

【木村さんの経験】

ひいおばあちゃんが「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。
ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」
と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけだな。



- 1 時代とともに言葉の意味が変わること。
- 2 時代とともにものの使い方が変わることを。
- 3 世代によってもものの呼び方がちがうこと。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。

二 木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思い
ました。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】
に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料2】

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【資料3】

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) あたらし ↓ (平安時代) ア ↓ あたらしい (今)

時代とともに言葉の形が変わる。

うづもてあふふきなう

(室町時代) どうせ ↓ どうしても、とうてい ↓ 非常に (大正時代より前) (今)

イ

- (1) 【木村さんのメモ】の ア の中に入る適切な言葉を【資料2】の中から書きぬきましよう。

(2) 【木村さんのメモ】の イ に当てはまる内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 世代によってもものの呼び方がちがう。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

三

木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましよう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料(【資料2】、【資料3】)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。



木村さん

私は、この資料(【資料4】)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとらえ方にちがいがあることが分かるでしょ。



田中さん

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

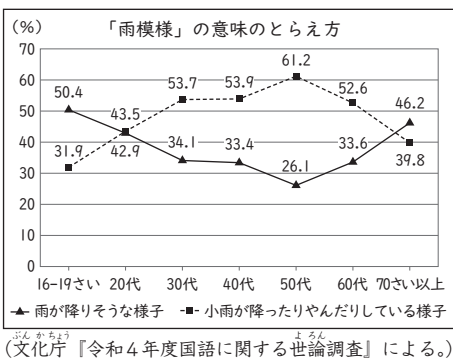


木村さん

こんなふうに、人によって言葉の意味のとらえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。



田中さん



【資料4】

言葉の変化については、いろいろな考え方があんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。



木村さん

(1) 【話し合いの様子】の **A** に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 4
【資料1】
の
部
④
- 3
【資料1】
の
部
③
- 2
【資料1】
の
部
②
- 1
【資料1】
の
部
①

(2) 木村さんは【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

[illegible]

正答（例）【小学校国語】

① 一 4

二 2

三 (1) 1

三 (2) 3

② 一 2

二 3

三 (例)

何回か折って本を包むと、ブックカバーになり、よごれがつくのを防ぐことができます。また、ペットボトルを包んで持ち運ぶこともでき、水てきが荷物につくのを防ぐことができます。（84字）

四 ア 好（み）

四 イ 暑（い）

③ 一 3

二 (1) あたらし

二 (2) 1

三 (1) 3

三 (2) (例)

言葉は年月とともに変化するという事になったくしました。なぜなら、「新しい」という

言葉が、奈良時代には「あたたし」と言われていたように、時代とともに言葉の形が変わることがあるからです。

小学校第6学年

算 数

注 意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから22ページまであります。問題用紙のあいている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB以上のこさの黒えんぴつ（シャープペンシルも可、ボールペンは不可）を使い、こく、はっきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、45分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があります。解答時間終りよう後、先生の指示で回答しましょう。

4

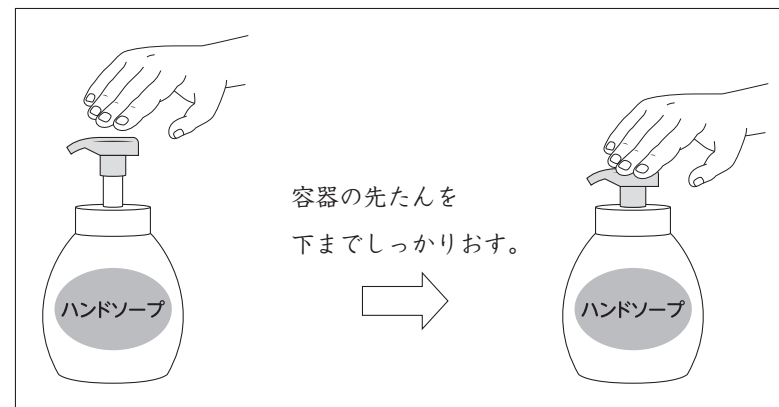
保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



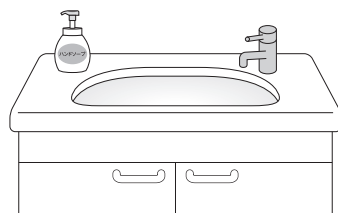
ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先たんを下までしっかり」回すことです。

「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることとします。」



- (1) まず、あさひさんは、保健室にある新品のハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを考えています。



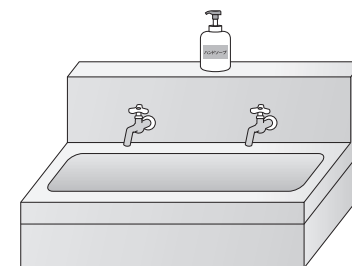
保健室にある新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。

新品のハンドソープには、ハンドソープの液体が 240 mL 入っています。
新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを知るためには、240 mL の他に何がわかればよいですか。

下の **ア** から **エ** までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- | | | |
|----------|------------------------|------|
| ア | 1 プッシュ分のハンドソープの液体の量 | 3 mL |
| イ | 1 プッシュするときにおす長さ | 2 cm |
| ウ | あさひさんが 1 日にプッシュする回数の平均 | 8 回 |
| エ | あさひさんが手を洗うときにかかる時間の平均 | 60 秒 |

- (2) 学校の手洗い場^{あら}に、別の容器に入っている使いかけのハンドソープがあります。



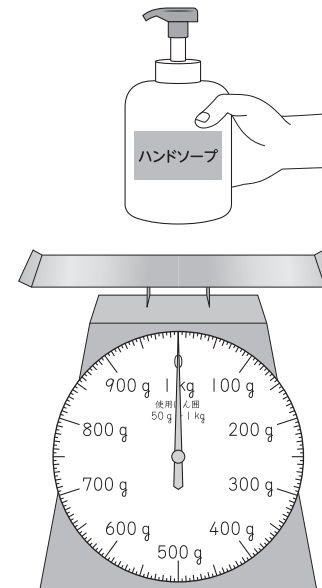
次に、あさひさんたちは、そのハンドソープを^{から}空になるまで使うとしたら、あと何プッシュすることができるのかを考えています。



新品だったらハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、はっきりわかるけれど、使いかけのハンドソープの液体が何 mL 入っているのかは、すぐにはわかりません。



ハンドソープの液体の重さをはかって調べられないでしょうか。



このハンドソープの液体と容器を合わせた重さは 270 g でした。

使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、270 g の他に何がわかればよいですか。

下の **ア** から **エ** までの中から **2つ** 選んで、その記号を書きましょう。

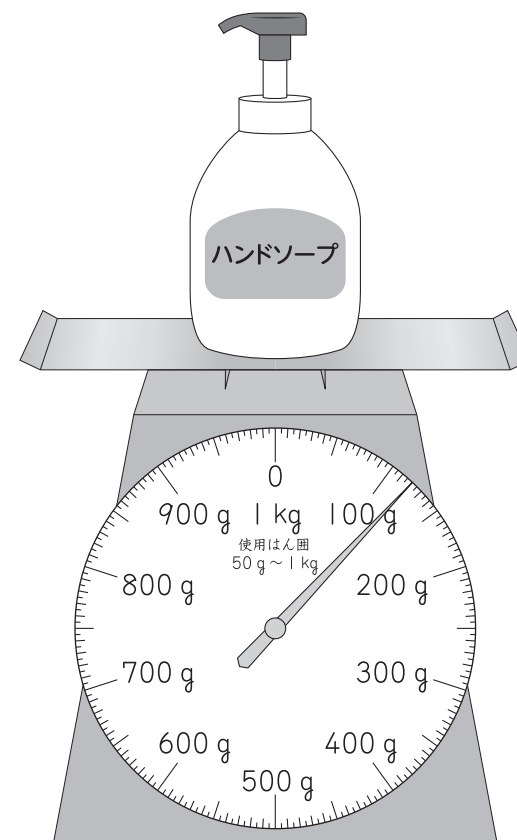
また、その2つと 270 g を使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。

- | | |
|------------------------------|-------|
| ア 新品のハンドソープの重さ | 360 g |
| イ ハンドソープの容器の重さ | 60 g |
| ウ 1プッシュ分のハンドソープの液体の重さ | 3 g |
| エ かなさんが1日に手を洗う回数の平均 | 7 回 |

- (3) あさひさんたちは、さらに別の容器のハンドソープの重さを調べています。そのハンドソープを容器ごとはかりにのせると、下の図のようになりました。

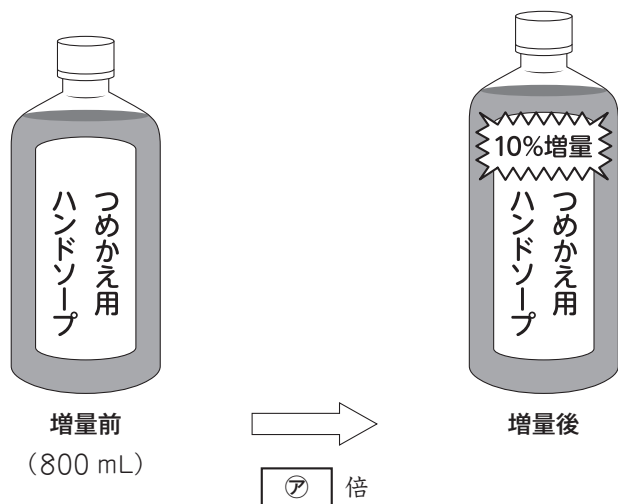
はかりの針が指している目もりは何 g ですか。

答えを書きましょう。



(4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の⑦にあてはまる数を、下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 0.1

2 1.1

3 10

4 110

使いかけのハンドソープの液体の重さは、 $270 - 60 = 210$ で210 gです。あと何プッシュできるかは、 $210 \div 3 = 70$ で求められます。

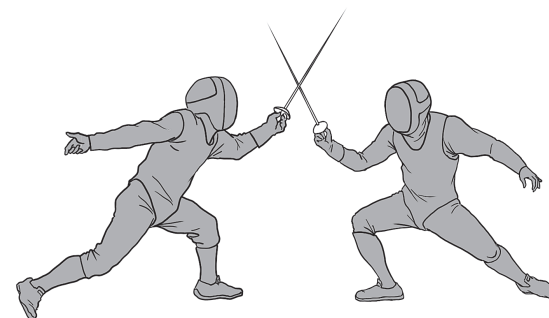
小学校第6学年 理科

注 意

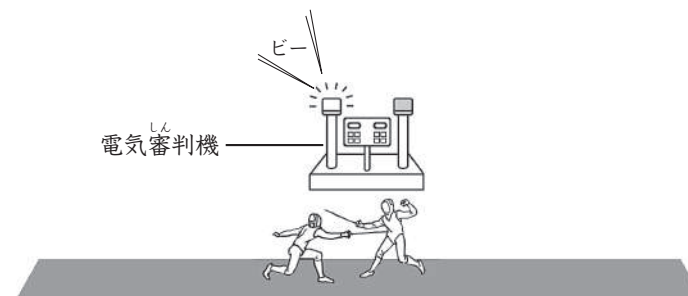
- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから22ページまであります。
問題用紙のあいている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、
全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB以上のこさの黒えんぴつ（シャープペン
シルも可、ボールペンは不可）を使い、こく、はっきりと
書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに
消しましょう。
- 5 解答時間は、45分間です。解答が早く終わったら、
よく見直しましょう。
- 6 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があり
ます。解答時間終りよう後、先生の指示で回答しましょう。

2

てつやさんといおりさんは、フェンシングについて調べています。

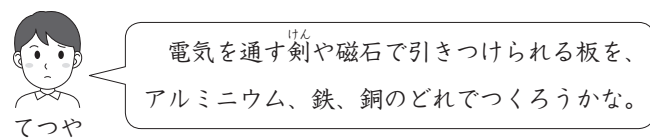
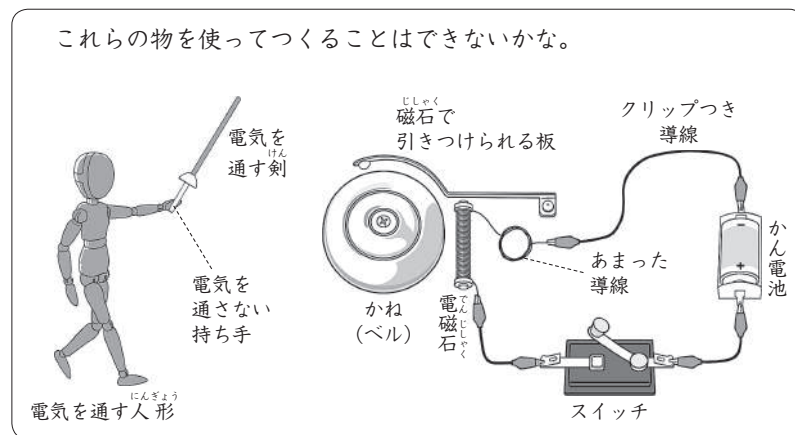
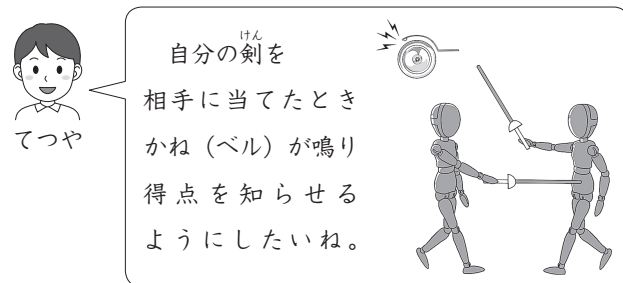


フェンシングには、相手より先に剣^{けん}を当てると得点になる
種目^{しゅもく}がある。



どちらが先に剣^{けん}を当てたか、電気の性質を利用して、音や光で
知らせている。

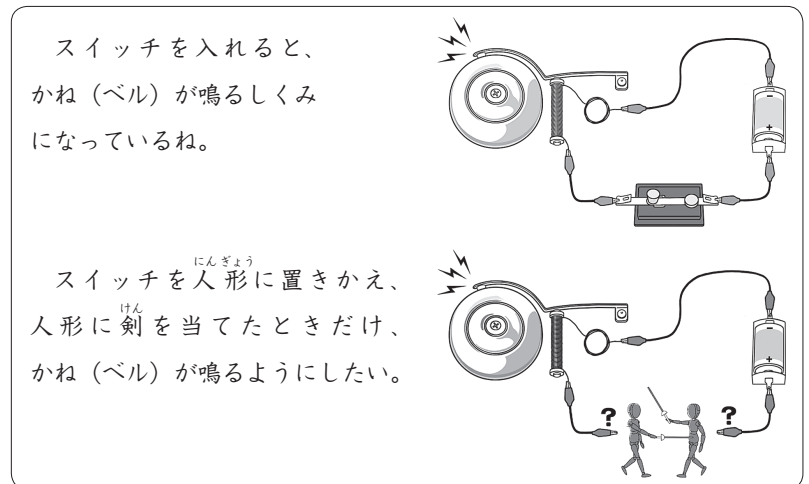
てつやさんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



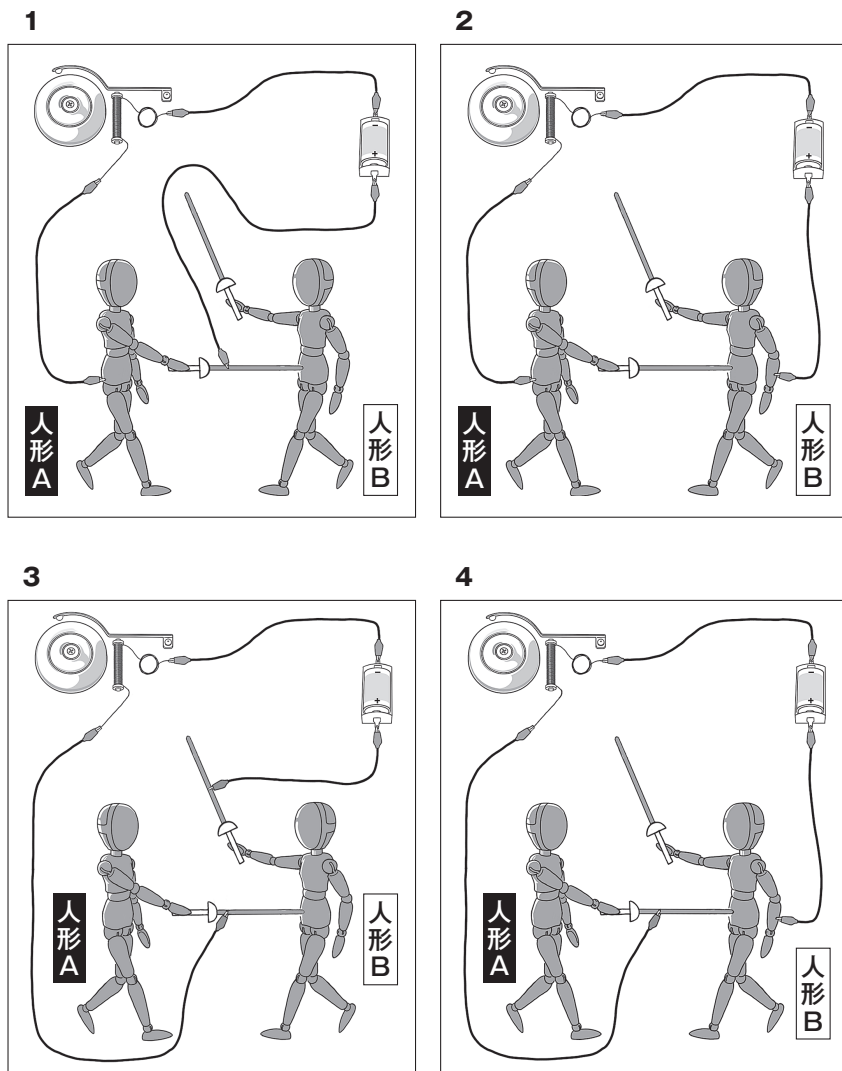
(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までのの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

いおりさんは、かね（ベル）が鳴るしくみについて考えています。



(2) 「人形Aの剣^{にんぎょう けん}を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、
どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までのの中から1つ選んで、
その番号を書きましょう。



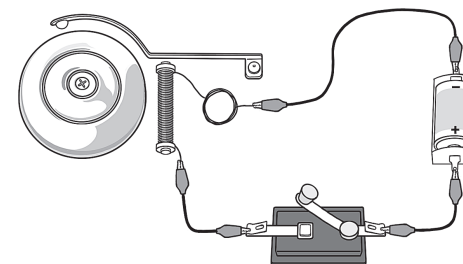
いおりさんとてつやさんは、かね（ベル）について話しています。

かね（ベル）の鳴る音が小さいので、
音を大きくしたいね。電磁石^{でんじしゃく}の強さを
強くして、かねを強くたたけばいいね。



電磁石の強さを強くするには、次のように
するといいね。

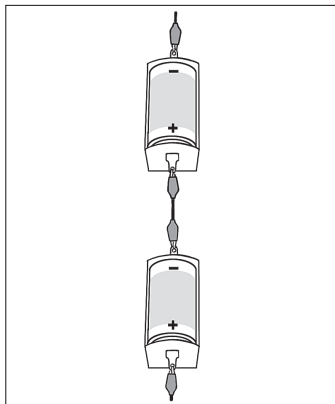
- ・電磁石のコイルの巻き数^{まきかず}を変えるとしたら、
巻き数を（ア）。
- ・かん電池を変えるとしたら、
かん電池を2個直列つなぎにする。



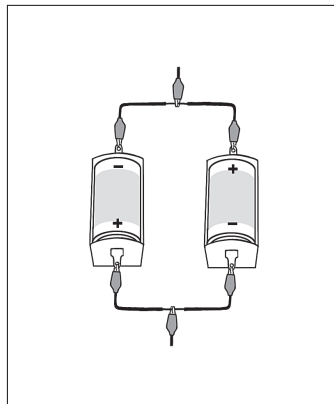
(3) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

- (4) かん電池 2 個を直列につなぎ、電磁石の強さを最も強くできるのは、
どのようなつなぎ方ですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、
その番号を書きましょう。

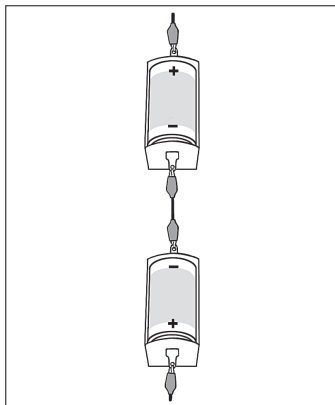
1



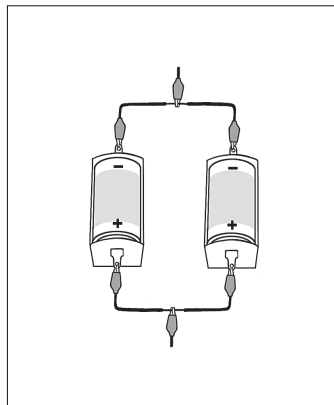
2



3



4



中学校第3学年

国語

注意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから21ページまであります。問題用紙の空いている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答は、全て「国語」の解答用紙に記入してください。
- 4 解答は、HB以上の濃さの黒鉛筆（シャープペンシルも可、ボールペンは不可）を使い、濃く、はっきりと書いてください。
- 5 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 6 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 7 解答用紙の解答欄は、裏にもあります。
- 8 調査時間は、50分間です。
- 9 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があります。解答時間終了後、先生の指示で回答してください。

1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年美術展に会場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することになりました。次は、中井さんが参考にした【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】と、文書作成ソフトを用いて作成している【ちらし】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】

第一

第一中学校

ホーム	学校紹介	行事予定	学校生活	保護者の方へ
-----	------	------	------	--------

行事のご案内

更新日 令和7年10月3日

美術展の開催のお知らせ

秋の恒例となった「第一中学校 美術展」を開催いたします。各学年の生徒たちは、美術展に向けて作品づくりに励んでおります。ご多忙とは存じますが、生徒たちの力作をご覧いただければ幸いです。ご来校をお待ちしております。

◆開催日時
令和7年11月15日（土） 10時～16時

◆開催場所
第一中学校 体育館

【ちらし】

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいいんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

日 時	令和7年11月15日（土） 10時～16時
場 所	第一中学校 体育館
会場図	

体験できる時間（各回30分間）
① 10時～ ② 11時～ ③ 12時～ ④ 13時～

一 中井さんは、【ちらし】の——線部「かいいん」を漢字に変換しようとしています。漢字に変換したものとして最も適切なものを、次の1から3までのの中から1つ選びなさい。

- 1 会心
- 2 改心
- 3 改新

二 中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学校6年生に向けたちらしであることを示すため。
- 2 ウェブページの情報と比較しやすくするため。
- 3 会場となる体育館まで迷わずに来てもらうため。
- 4 展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。
~~体験コーナーでは、中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。~~

日時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場所 第一中学校 体育館

会場図

体験できる時間(各回30分間)

①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

~~中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。~~

三 中井さんは、【ちらし】(更新版①)のように、——線の部分を削除して の中に書き加えました。その意図を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 具体例を示したあとに要点を示すことで、中心となる情報に対する読み手の理解を深めようとした。
- 2 伝えるべき事柄に見出しを付けることで、読み手に速やかに情報を伝えようとした。
- 3 情報を示す位置を整理することで、関連する情報を読み手がまとめて得られるようにした。
- 4 時間の流れに沿って情報を示すことで、読み手が必要とする情報を見付けやすくした。

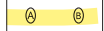
- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。

B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

- ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのかわりなくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。

イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。

ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。



← 選んだ【工夫】と【感想の一部】の記号を塗りつぶしなさい。

第一小学校6年生のみなさんへ

昨年の来場者から、そうやって作品を作ったのかわりなくなりました。そこで、今年は中学生が作品について説明します。気になる作品があったら、ぜひ中学生に質問してください。

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもかいしんの出来です。

今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場所 第一中学校 体育館

会場図

体験できる時間(各回30分間)

①10時～ ②11時～ ③12時～ ④13時～

中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくることができます。

第一小学校6年生のみなさんへ

四 今年の美術展では、昨年の美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】(更新版②)の の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

- 条件1 今年の美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び(どちらを選んでもかまいません。)、それと結び付く小学生の【感想の一部】をAからウまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年の美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。
解答は必ず解答用紙に書きなさい。

中学校第3学年

数 学

注 意

- 1 先生の合図があるまで、冊子を開かないでください。
- 2 調査問題は、1 ページから 20 ページまであります。
問題用紙の空いている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答は、全て「数学」の解答用紙に記入してください。
- 4 解答は、HB 以上の濃さの黒鉛筆(シャープペンシルも可、ボールペンは不可)を使い、濃く、はっきりと書いてください。
- 5 解答を選択肢から選ぶ問題は、解答用紙のマーク欄を黒く塗りつぶしてください。
- 6 解答を記述する問題は、指示された解答欄に記入してください。解答欄からはみ出さないように書いてください。
- 7 解答には、定規やコンパスは使用しません。
- 8 解答用紙の解答欄は、裏にもあります。
- 9 調査時間は、50 分間です。
- 10 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があります。解答時間終了後、先生の指示で回答してください。

- 8 A 駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C 駅と D 駅の間にあるスタジアムによく行きます。



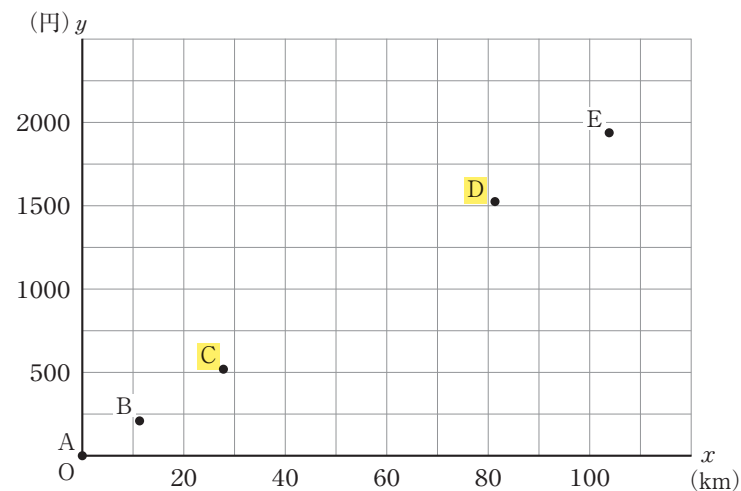
歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A 駅から新しい駅までの運賃がいくらになるのか気になりました。そこで、A 駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A 駅	B 駅	C 駅	D 駅	E 駅
A 駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A 駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930

歩夢さんは、上の調べた結果を見て、A 駅からの走行距離と運賃にはどのような関係があるかわかりにくいと感じました。そこで、調べた結果をもとに、A 駅からの走行距離を x km、A 駅からの運賃を y 円とし、コンピュータを使って下のようなグラフに表しました。このグラフの点 A から点 E までの各点の x 座標と y 座標は、それぞれ A 駅から E 駅までの各駅の A 駅からの走行距離と運賃を表しています。

A 駅からの走行距離と運賃のグラフ



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 歩夢さんは、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフを見て、C駅とD駅の間の走行距離は、他の駅と駅の間比べて長いと思いました。

C駅とD駅の間の走行距離は、A駅からの走行距離と運賃のグラフの何を読み取ればわかりますか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 点Dの x 座標と原点の x 座標の差

イ 点Dの x 座標と点Cの x 座標の差

ウ 点Dの y 座標と原点の y 座標の差

エ 点Dの y 座標と点Cの y 座標の差

- (2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0 kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

(解答例)

- ・点Aから点Eをもとに、直線のグラフをかき、 x 座標が60のときの y 座標を読む。
- ・対応する x と y の値をもとに、 x と y の関係を比例の式(一次関数の式)に表しその式に $x=60$ を代入して、 y の値を求める。
- ・表の数値を用いて比例定数を調べ、その比例定数でA駅からの走行距離が60.0kmになるときの運賃を計算する。

1

理科の実験で使用する水について考える



理科の実験で使用する水は精製水です。精製水について、調べたことを発表しましょう。

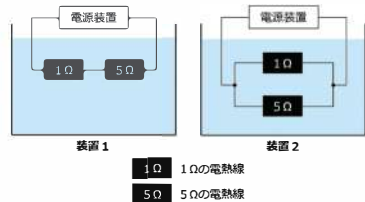
精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりすることによってつくった水です。



より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつけたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。



(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置 1、装置 2 のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置 1、装置 2 のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい

速く水が温まる装置

課題を設定する



【Aさんの疑問】
理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

【Aさんの疑問】を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？



課題は、
() にしようと思います。

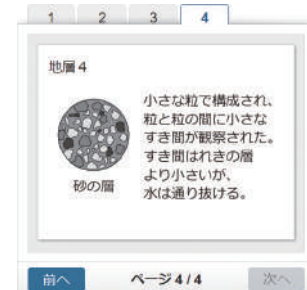
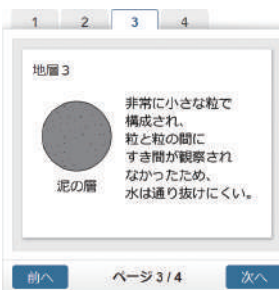
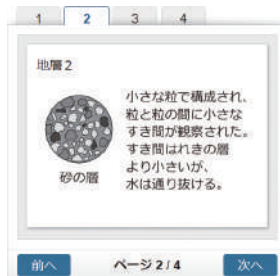
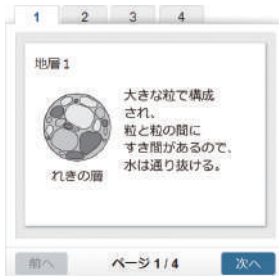
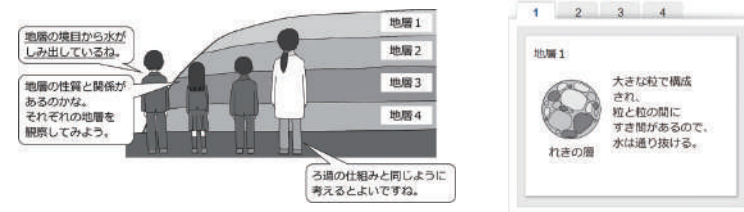
(2)

【Aさんの疑問】を解決するために、() に適切な課題を書きなさい。

課題

水道水と精製水の性質にはどのような違いがあるか。水道水と精製水の違いを調べよう

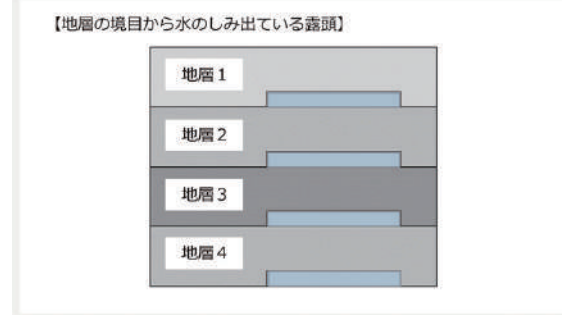
水道水のもとになる水について調べる



(3)

下線部の水がしみ出る位置として最も適切なものを、の中から1つ選びなさい。

最大1個選択できます



地層からしみ出した水について調べる



図のように地層からしみ出した水がたまっていたので、この水を適切な実験器具で観察しましょう。



図 地層からしみ出した水を採取している様子

下のように4種類の生物が観察できました。



観察した様子を見ましょう。



生物 1



生物 2



生物 3



生物 4

生物 2、生物 4 の動画 出典 茨城原産ケシ菌場科学センター



これまでの学習内容を活用して呼吸を行う生物はどれか、考えてみましょう。



呼吸を行う生物は……。

(4)

呼吸を行う生物をすべて選びなさい。なお、生物 1 から 4 のすべてを選んでもかまいません。

☐	☐	☐	☐
生物 1	生物 2	生物 3	生物 4

水道水について調べる

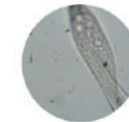
顕微鏡で観察した結果から、地層からしみ出した水にいろいろな生物がいたので、このままでは安全に飲めないことが分かりました。



地層からしみ出した水などを安全な水道水にするため、ろ過したり、塩素を含む薬品を加えたりしています。



水道水を顕微鏡で観察すると、図のように生物は観察されませんでした。これは、日本の水道水が安全に飲むことのできる理由の1つですね。



地層からしみ出した後
たまった水



水道水

図

(5)

大文字、小文字を区別して、下線部の元素記号を書きなさい。

解答欄

探究を振り返る

水道水、精製水について探究したことを発表しています。

水道水について



- ・河川の水などを顕微鏡で観察すると、いろいろな生物がいるので、安全に飲むための工夫をしている。
- ・河川の水などを浄水施設でろ過し、塩素を注入したものを水道水として利用している。

精製水について



- ・理科の実験で使用する精製水は、水道水を蒸留したり、ろ過したりしてつくられ、販売されている。
- ・精製水とミネラルウォーターとの違いは何かを現在調べている。

探究を通して、さらに疑問に感じたことに着目して振り返ります。

…水について、…ということが分かり、…についてさらに疑問を感じたので…

Bさん

探究を通して、はじめの考えから考えが変化したことに着目して振り返ります。

最初は…と思っていましたが、…という考えに変わりました。

Cさん

探究を通して、身近な生活とのつながりを感じたことに着目して振り返ります。

…ので、身近な生活とのつながりがあることが分かりました。

Dさん

(6)

上の発表を見て、水道水や精製水に対し、Bさん、Cさん、Dさんを参考にして、あなたの振り返りを書きなさい。

振り返り